

00 市場単価等

00-01 一般事項

1 市場単価

1-1 市場単価構成

市場単価は、工事を構成する一部又は全部の工種について、歩掛を用いず、資材費、労務費、及び直接経費（機械経費など）を含む施工単位当たりの市場での取引実勢を把握し策定した単価である。

1-2 適用工種

市場単価適用工種は、「00 市場単価等」に掲載の工種とする。

1-3 採用単価

採用単価は、（一財）経済調査会発行「土木施工単価」、（一財）建設物価調査会発行「土木コスト情報」の平均価格（有効数字4ケタ目切捨、整数止）とし、適用号は次によること。また、設計変更等により新工種が生じた場合は積算基準日を変更通知日と読み替えて適用する。

積算基準日	6/1～8/31	9/1～11/30	12/1～2/28	3/1～5/31
適用号	春号	夏号	秋号	冬号

1-4 適用範囲、適用除外、~~適用基準~~市場単価の設定

北海道水産林務部森林土木事業標準歩掛表を用いる工事費積算において使用する。

適用範囲~~・適用除外~~、市場単価の設定は、（一財）経済調査会発行「土木施工単価」、（一財）建設物価調査会発行「土木コスト情報」を参照すること。

また、（一財）経済調査会発行の「土木施工単価の解説」にも市場単価適用の解説が掲載されているので併せて参考とすること。

なお、その他の適用については各工種ごとに記載している「※」を参照すること。

1-5 随意契約を行う場合の取扱い

随意契約を行う場合の市場単価の取扱いについて、現工事の施工規模による加算額、ならびに追加工事の施工規模による加算額は、それぞれ単独工事とした施工規模による加算額とする。

1-6 積算

- (1) 冬期労務費補正は、適用しない。
- (2) 離島においては、機材費等の海上輸送費を実態に応じて別途計上すること。

~~1-7 その他~~

~~市場単価の適用に当たっては、上記両調査会の出版物を参照し、「市場単価の構成と範囲」、「市場単価の規格・仕様」、「加算率・補正係数」及び「適用に当たっての留意事項」の基準によること。~~

~~また、（一財）経済調査会発行の「土木施工単価の解説」にも市場単価適用の解説が掲載されているので併せて参考とすること。~~

2 土木工事標準単価

市場単価方式による単価の設定において、良好な取引が行われたデータの収集が困難になってきている一部工種について、（一財）経済調査会及び（一財）建設物価調査会が実態調査の上で設定する歩掛をもとにした単価「土木工事標準単価」による。

2-1 土木工事標準単価構成

土木工事標準単価は、標準的な工法による施工単位当たりの工事費で、工事業者の実行予算に基づき、調査により得られた材料費、歩掛等によって算定した単価である。

2-2 適用工種

土木工事標準単価適用工種は、「00 市場単価等」に掲載の工種とする。

2-3 採用単価

00-02 市場単価

地理的条件により、地元市町村役場(支所等を含む。)から施工現場までの片道に1時間を超える場合は、10%の割増補正を行うことができるものとする。ただし、時間的制約を受ける場合の補正係数が設定されている市場単価において、時間的制約を受ける場合の補正係数を適用する場合は、10%の割増補正を重複して適用しない。

また、施工規模による補正と時間的制約による補正が重複する場合は、施工規模のみによる補正とする。

00-02-010 鉄筋工

~~1 適用範囲~~

~~本資料は、市場単価方式による鉄筋工に適用する。~~

~~1-1 市場単価が適用できる範囲~~

- ~~(1) 河川、海岸、道路、水路、コンクリート橋梁、鋼橋用およびコンクリート橋（PCコンボ橋、PC合成桁橋）用床版（PC床版は除く）等の鉄筋構造物の加工・組立、および差筋（削孔等を行うあと施工アンカーは除く）、場所打杭の鉄筋かごの加工・組立。~~
- ~~(2) 鉄筋径は、D10（φ9）以上D51（φ51）以下とする。~~

~~1-2 市場単価が適用できない範囲~~

- ~~(1) 表1.1に示す工種。~~
- ~~(2) ダム本体工事における鉄筋工~~
- ~~(3) 鉄筋加工、もしくは鉄筋組立のみ。~~
- ~~(4) 25t吊以下のトラッククレーン及びラフテレンクレーン以外のクレーンを使用する場合。~~
- ~~(5) その他、規格・仕様等が適合しない場合。~~

表1.1 市場単価が適用できない工種

・コンクリートブロック積（張）の連結ブロック等の連結用鉄筋工
・コンクリート舗装工
・道路維持修繕の橋梁地覆補修工
・ポストテンション桁製作
・PC橋架設工
・ポストテンション場所打ホロースラブ橋
・ポストテンション場所打箱桁橋
・伸縮装置工
・沓座抜幅工
・コンクリート山止め壁工の場所打連続壁工
・その他（特に加工・組立が困難な構造物）

00-02-020 鉄筋工（ガス圧接工）

~~1 適用範囲~~

~~本資料は、市場単価方式によるガス圧接工に適用する。~~

~~1-1 市場単価が適用できる範囲~~

- ~~(1) 鉄筋構造物の組立作業における手動式（半自動式）、自動式のガス圧接工。~~

~~1-2 市場単価が適用できない範囲~~

- ~~(1) 熱間押抜法によるガス圧接工。~~
- ~~(2) その他、規格・仕様等が適合しない場合。~~

00-02-030 防護柵設置工（ガードレール）

~~1 適用範囲~~

~~本資料は、市場単価方式による防護柵設置工（ガードレール）に適用する。~~

~~1-1 市場単価が適用できる範囲~~

- ~~(1) 新設・更新、撤去工事。~~
- ~~(2) 部材設置、部材撤去。~~

~~1-2 市場単価が適用できない範囲~~

- ~~(1) 橋梁建込の場合。~~
- ~~(2) 事故後の復旧工事（設置・撤去）。~~
- ~~(3) ベースプレート式の設置の場合。~~
- ~~(4) 2-2（別途参照）市場単価の規格・仕様（表2.1～2.8）以外の製品の場合。~~
- ~~(5) S種、A種で標準支柱より長い場合や曲げ支柱の場合。~~
- ~~(6) 標準型ガードレールに根巻きコンクリートを設置する場合。~~
- ~~(7) その他、規格・仕様等が適合しない場合。~~

00-02-040 防護柵設置工（横断・転落防止柵）

~~1 適用範囲~~

~~本資料は、市場単価方式による柵高70cm以上125cm以下の防護柵設置工（横断・転落防止柵）に適用する。~~

~~1-1 市場単価が適用できる範囲~~

- ~~(1) 新設・更新、撤去工事。~~
- ~~(2) 部材設置、部材撤去工事。~~

~~1-2 市場単価が適用できない範囲~~

- ~~(1) 事故後の復旧工事（設置・撤去）。~~
- ~~(2) 防護柵（P種）〔横断・転落防止柵〕以外の製品の場合。~~
- ~~(3) 高さが125cm超の場合。~~
- ~~(4) 門型の横断防止柵を牽止めとして設置する場合。~~
- ~~(5) 勾配が2割未満(1:2.0)の階段部、法面に設置する場合。~~
- ~~(6) アンカーボルト固定のアンカーボルトにステンレス製やケミカルアンカーを使用する場合。~~
- ~~(7) その他、規格・仕様等が適合しない場合。~~

00-02-050 防護柵設置工（落石防護柵）

~~1 適用範囲~~

~~本資料は、市場単価方式による落石防護柵（ストーンガード）設置及び撤去工に適用する。~~

~~1-1 市場単価が適用できる範囲~~

- ~~(1) 防護柵設置工のうち、落石防護柵（ストーンガード）設置及び撤去に適用し、柵高は4m以下、支柱間隔は3m（耐雪型（土弦材付）は3m、2m）とする。~~

~~1-2 市場単価が適用できない範囲~~

- ~~(1) 柵高が1.5m未満、及び4mを超える場合。~~

- ~~(2) 耐雪型のロープ・金網設置工（上弦材なし）の場合。~~
- ~~(3) 耐雪型のロープ・金網設置工（上弦材付）で柵高が3mを超える場合。~~
- ~~(4) 落雪（せり出し）防護柵の場合。~~
- ~~(5) 支柱の塗装仕様が現場塗装の場合。~~
- ~~(6) 高エネルギー吸収柵の場合。~~
- ~~(7) その他、規格・仕様等が適合しない場合。~~

~~2※ その他~~

「現場内小運搬を含む」となっている場合は、20m程度の小運搬を想定しており、これによりがたい場合は別途計上すること。

00-02-060 防護柵設置工（落石防止網）

~~1 適用範囲~~

~~本資料は、市場単価方式による落石防止網（ロックネット）設置工に適用する。~~

~~1-1 市場単価が適用できる範囲~~

- ~~(1) 資材持ち上げ直高が45m以下で、覆式の鋼製落石防止網（ロックネット）設置工及びポケット式の鋼製落石防止網（ロックネット）設置工のうち支柱がアンカー固定式による場合の新設工事。~~
- ~~(2) 支柱の表面仕様が工場メッキ仕上げ、または現場塗装仕上げ（メッキなし）の場合。~~

~~1-2 市場単価が適用できない範囲~~

- ~~(1) 落石防止網（繊維網）設置工。~~
- ~~(2) ロープ伏工及び密着型安定ネット工による落石予防工。~~
- ~~(3) ポケット式の鋼製落石防止網（ロックネット）設置工のうち、支柱が埋め込み式及びミニポケット式（支柱据置式）による場合。~~
- ~~(4) アンカー及び支柱の設置がコンクリートの基礎による場合。~~
- ~~(5) 支柱の表面仕様がメッキの上に塗装仕上げする場合。~~
- ~~(6) その他、規格・仕様等が適合しない場合。~~

~~2※ その他~~

「現場内小運搬を含む」となっている場合は、人力による小運搬を想定しており、これによりがたい場合は別途計上すること。

00-02-070 防護柵設置工（ガードパイプ）

~~1 適用範囲~~

~~本資料は、市場単価方式による防護柵設置工（歩車道境界用ガードパイプ）に適用する。~~

~~1-1 市場単価が適用できる範囲~~

- ~~(1) 新設・更新・撤去工事。~~
- ~~(2) 部材設置、部材撤去。~~

~~1-2 市場単価が適用できない範囲~~

- ~~(1) 事故後の復旧工事（撤去・設置）。~~
- ~~(2) 耐雪型を用いる場合。~~
- ~~(3) ベースプレート式ガードパイプの場合。~~

- ~~(4) 2-2 (別途参照) 市場単価の規格・仕様(表2.1)以外の製品の場合。~~
- ~~(5) 景観型ガドパイプの場合(Gp-A-3E4, Gp-A-3EV等)。~~
- ~~(6) A種で標準支柱より長い場合や曲げ支柱の場合。~~
- ~~(7) 特殊袖ジーム(張出し幅300mm・500mmのE型袖など)の場合。~~
- ~~(8) その他、規格・仕様等が適合しない場合。~~

00-02-080 道路標識設置工

~~1 適用範囲~~

~~本資料は、市場単価方式による道路標識設置工に適用する。~~

~~1-1 市場単価が適用できる範囲~~

- ~~(1) 道路標識の標識柱設置、標識板設置及びコンクリート基礎設置工事。~~
- ~~(2) 道路標識の標識柱撤去、標識板撤去及びコンクリート基礎撤去工事。~~
- ~~(3) 道路標識の更新工事。~~

~~1-2 市場単価が適用できない範囲~~

- ~~(1) 内部照明式の標識板の設置及び撤去工事。~~
- ~~(2) 外部照明式の標識板と照明設備の設置及び撤去工事。~~
- ~~(3) 道路標識における基礎工事のうち基礎杭の設置及び撤去工事。~~
- ~~(4) 標識柱・基礎設置(路側式)で、白色、景観色(標準3色)以外の塗装色製品を用いる場合。~~
- ~~(5) 道路管理者以外が行う標識工事。~~
- ~~(6) 着雪防止板の設置及び撤去。~~
- ~~(7) 道路標識における基礎工事のうち岩掘削を必要とする工事。~~
- ~~(8) 標識柱の基礎がコンクリート以外(鋼管基礎など)の場合。~~
- ~~(9) 道路照明柱を設置、撤去する場合。~~
- ~~(10) 標識板設置において、嵌合構造で固定する標識板の場合。~~
- ~~(11) 標識板設置において、部分補修(リベット止め、シール貼りなど)の場合。~~
- ~~(12) その他、規格・仕様等が適合しない場合。~~

00-02-090 道路付属物設置工(視線誘導標・境界杭)

~~1 適用範囲~~

~~本資料は、道路付属物のうち、視線誘導標及び境界杭の設置・撤去到適用する。~~

~~1-1 市場単価が適用できる範囲~~

~~以下の設置及び撤去作業。~~

- ~~(1) 道路に設置する視線誘導標(土中建込用、コンクリート建込用、既設防護柵取付用、構造物取付用)、およびスノーポール併用型視線誘導標(土中建込用、コンクリート建込用)。~~
- ~~(2) 境界杭(コンクリート製)。~~

~~1-2 市場単価が適用できない範囲~~

- ~~(1) メーカーのオリジナル製品を用いる場合。~~
- ~~(2) 自発光式及び電気式の製品を用いる場合。~~
- ~~(3) 景観に配慮した塗装(景観に配慮した防護柵の整備ガイドラインに基づく基本3色等)を施した製品を用いる場合(ただし、手間のみは適用可)。~~

~~(4) 表1.1による場合。~~

~~(5) 境界杭のうち、材質が木や樹脂の場合。~~

~~(6) その他、規格・仕様等が適合しない場合。~~

~~表1.1~~

視線誘導標	三眼視線誘導標
	三眼視線誘導標
	線形誘導標示板

00-02-110 法面工

~~1 適用範囲~~

~~本資料は、市場単価方式による法面工に適用する。~~

~~1-1 市場単価が適用できる範囲~~

~~(1) 法面工のうち、モルタル吹付工、コンクリート吹付工、繊維ネット工、機械播種施工による植生工（植生基材吹付工、客土吹付工、種子散布工）、人力施工による植生工（植生マット工、植生シート工、植生筋工、筋芝工、張芝工及び北海道特殊規格）および吹付棒工のうち棒内吹付（モルタル吹付工、コンクリート吹付工、植生基材吹付工）に適用する。~~

~~1-2 市場単価が適用できない範囲~~

~~(1) 法面工のうち、法面整形工、コンクリート法棒工、法面施肥工、吹付棒工（棒内吹付を除く）及び吹付法面取りこわし工。~~

~~(2) モルタル・コンクリート吹付工で法面垂直高が45mを超える場合、または、吹付のホース延長が100mを超える場合、植生基材吹付工で法面垂直高が80mを超える場合、客土吹付工で法面垂直高が25mを超える場合、及び種子散布工で法面垂直高が30mを超える場合。~~

~~(3) 使用植物（種子）に花系及び表1.1以外の種子を主体として用いる植生基材吹付工、客土吹付工、種子散布工、植生マット工及び植生シート工。~~

~~(4) 使用植物（種子）に国産の種子を用いる植生基材吹付工、客土吹付工、種子散布工、植生マット工、植生シート工~~

~~(5) 吹付棒工の棒内吹付で、モルタル、コンクリート及び植生基材以外を吹き付ける場合。~~

~~(6) 植生マット工、繊維ネット工、植生シート工で以下の場合。~~

~~1) 繊維ネット工で金属繊維を用いたネットを使用する場合。~~

~~2) 肥料袋付で、肥料袋の形状がパイプ状でないもの。~~

~~3) 岩盤法面相当に適用する高規格製品（植生基材封入タイプ等）を使用する場合。~~

~~(7) 植生筋工、筋芝工、張芝工で以下の場合。~~

~~1) 植生筋工、筋芝工を切土法面に施工する場合。~~

~~2) 部分張り（日地張り、千鳥張り、市松張り）の場合。~~

~~3) 公園工事の場合。~~

~~4) 道路植栽工事の場合。~~

~~(8) 植生基材吹付工で現場発生木材（チップ材等）を使用する場合。~~

~~(9) モルタル吹付工、コンクリート吹付工、植生基材吹付工でラス・アンカー・ピン等の設置をしない場合。~~

~~(10) その他、規格・仕様等が適合しない場合。~~

表1.1 ~~使用種子~~

草 本 類	外 来 種	トールフェスタ、クリーピングレッドフェスタ、オチャードグラス、 ケッタツキ、ブルグラス、チモン、パミューダグラス、 バビアグラス、ホワイトクローバ、ペレニアルライグラス、イタリアンライグラス、 バントグラス、レッドトップ
	在 来 種	ヨモギ、ススキ、イタドリ、メトハギ
木 本 類	在 来 種	= ヤマハギ(皮取り)、ヤマハギ(皮付き)、コマツナギ

~~(注) 種子は、外国産を対象とする。~~

~~2※ その他~~

「現場内小運搬を含む」となっている場合において、植生筋工、筋芝工、張芝工においては20m程度の人力による小運搬を想定しており、これによりがたい場合は別途計上すること。

00-02-120 吹付砕工

~~1 適用範囲~~

~~本資料は、市場単価方式による吹付砕工に適用する。~~

~~1-1 市場単価が適用できる範囲~~

~~(1) 金網メッシュ、プラスチック段ボール等の自由に変形可能な型枠鉄筋のプレハブ部材を用い、鉄筋を含む吹付砕工。~~

~~1-2 市場単価が適用できない範囲~~

- ~~(1) 法面垂直高が45mを超える場合、または、吹付ホース延長が100mを超える場合。~~
- ~~(2) 梁の断面が正方形以外の場合。~~
- ~~(3) 基本外観形状が矩形（正方形、長方形）以外（三角形、台形、円形等）の場合（部分のみが矩形以外の場合は除く）。~~
- ~~(4) 設計アンカー力が標準以外の場合。~~
- ~~(5) 梁断面150×150で主アンカーにロックボルトを使用する場合。~~
- ~~(6) 梁断面300×300以下でスタップを配置する場合。~~
- ~~(7) ラス張工を枠内に部分的に施工する場合。~~
- ~~(8) ラス張工で菱形金網を使用しない場合。~~
- ~~(9) その他、規格・仕様等が適合しない場合。~~

~~2※ その他~~

「現場内小運搬を含む」となっている場合は、人力による小運搬を想定しており、クレーン等による現場内の小運搬は別途計上すること。

00-02-140 橋梁用伸縮継手装置設置工

~~1 適用範囲~~

~~本資料は、市場単価方式による橋梁用伸縮継手装置（ジョイント）設置工に適用する。~~

~~1-1 市場単価が適用できる範囲~~

- ~~(1) 伸縮装置本体質量（ボルト後締めの場合は、本体に付属するアンカーボルトを除く）が、1.8m当たり180kg以下の伸縮装置の新設及び補修工事で、以下の工事とする。~~
 - ~~1) 未供用部の橋梁および拡幅部等の伸縮装置を新たに設置する工事。~~
 - ~~2) 1日で完了する急速施工の既設橋の伸縮装置補修（取替）工事。~~
 - ~~3) 上記に該当する工事で、縦目地を施工する場合。~~

~~1-2 市場単価を適用できない範囲~~

- ~~(1) 旧伸縮装置本体質量（ボルト後締めの場合は、本体に付属するアンカーボルトを除く）が、1.8m当たり180kgを超える補修工事。~~
- ~~(2) 旧伸縮装置が、鋼製フィンガージョイントおよび鋼製スライドジョイント、埋設型伸縮装置の場合。~~
- ~~(3) 打設コンクリートに樹脂コンクリート、あるいは樹脂モルタルを使用する場合。~~
- ~~(4) 新設工事で打設コンクリートに超速硬コンクリートを使用する場合。~~
- ~~(5) 補修において、はつり部に補強鉄筋のある樹脂コンクリートの場合。~~
- ~~(6) 仮復旧等を伴う作業。~~
- ~~(7) ボルト固定による取り替え可能な伸縮装置の場合。~~
- ~~(8) 鋼床版の場合。~~
- ~~(9) 補修において、はつり工にウオータージェットを用いる場合。~~
- ~~(10) その他、規格・仕様等が適合しない場合。~~

00-02-150 橋梁用埋設型伸縮継手装置設置工

~~1 適用範囲~~

~~本資料は、市場単価方式による橋梁用埋設型伸縮継手装置（埋設型ジョイント）設置工に適用する。~~

~~1-1 市場単価が適用できる範囲~~

- ~~(1) 伸縮量が50mm（±25mm）以下の橋梁を対象とし、主に特殊合材（弾性合材）により桁の伸縮を吸収する構造を持つ埋設型伸縮継手装置で、以下の場合に適用する。~~
 - ~~1) 未供用部の橋梁及び拡幅部等の埋設型伸縮継手装置を新たに設置する工事。~~
 - ~~2) 1日で完了する急速施工の既設橋の伸縮継手装置補修（取替）工事で、旧伸縮継手装置が下記の仕様の場合。~~
 - ~~① 「市場単価 橋梁用伸縮継手装置設置工」の適用範囲内の製品である場合。~~
 - ~~② 突合わせ目地（無処理目地又は瀝青系目地の単純なもの）である場合。~~
 - ~~③ 埋設型伸縮継手装置である場合。~~

~~1-2 市場単価が適用できない範囲~~

- ~~(1) 特殊合材（弾性合材）を用いない鋼製金物による荷重支持型の橋梁用埋設型伸縮継手装置（埋設型ジョイント）。~~
- ~~(2) 旧伸縮装置が、鋼製フィンガージョイントおよび鋼製スライドジョイントの場合。~~
- ~~(3) ヘキリロック工法の場合。~~
- ~~(4) 打設コンクリートに樹脂コンクリート、あるいは樹脂モルタルを使用する場合。~~
- ~~(5) 仮復旧等を伴う作業。~~
- ~~(6) 補修において、はつり工にウオータージェットを用いる場合。~~
- ~~(7) その他、規格・仕様等が適合しない場合。~~

00-02-170 軟弱地盤処理工

~~1 適用範囲~~

~~本資料は、市場単価方式による軟弱地盤処理工に適用する。~~

~~1-1 市場単価が適用できる範囲~~

- ~~(1) 粘土、シルト及び有機質土等の地盤を対象として行う軟弱地盤処理工のうちのサンドドレージ工、サンドコンパクションパイル工及びこれらの工種の併用工に適用する。~~
- ~~(2) サンドドレージ工は杭径400mm及び500mm、サンドコンパクションパイル工はケーシングパイプ径400mm、杭径700mm程度で、いずれも敷鉄板の使用を標準とし、打設長は35m未満とする。~~

~~1-2 市場単価が適用できない範囲~~

- ~~(1) 静的締固工法（オースガ方式による砂杭造成工法）。~~
- ~~(2) 砂地盤を対象とする場合。~~
- ~~(3) サンドマット工。~~
- ~~(4) サンドパイル打機の分解・組立および運搬。~~
- ~~(5) その他、規格・仕様が適合しない場合。~~

00-02-180 鉄筋挿入工（ロックボルト工）

~~1 適用範囲~~

~~本資料は、市場単価方式による鉄筋挿入工（ロックボルト工）に適用する。~~

~~1-1 市場単価が適用できる範囲~~

- ~~(1) 法面における鉄筋挿入工（ロックボルト工）のうち、以下の現場条件、削孔径、削孔長に適合する場合。
 - ~~1) 削孔に要する重機が搬入可能な場合：削孔長1m以上5m以下、削孔径42mm以上65mm以下、法面垂直高さ30m以下。~~
 - ~~2) 削孔が仮設足場（単管足場）又は土足場となる場合：削孔長1m以上5m以下、削孔径42mm以上65mm以下、法面垂直高さ40m以下（ただし、機械設置基面から削孔位置までの高さが1m以下）。~~
 - ~~3) 削孔がロープ足場（命綱）となる場合：削孔長1m以上2m以下、削孔径42mm以上50mm以下、法面垂直高さ40m以下。~~~~

~~1-2 市場単価が適用できない範囲~~

- ~~(1) 自穿孔材による施工の場合。~~
- ~~(2) 逆巻き施工の場合。~~
- ~~(3) 土質が硬岩、玉石混土を含む場合。~~
- ~~(4) 削孔後の孔壁が自立しない場合。~~
- ~~(5) その他、規格・仕様が適合しない場合。~~

00-03 土木工事標準単価

00-03-010 区画線工

~~1 適用範囲~~

~~1-1 標準単価が適用できる範囲~~

- ~~(1) 道路に設置する区画線、道路標示の設置、消去。~~
- ~~(2) 設置作業のうち、溶融式（手動）、溶剤型及び水性型ペイント式（車載式）及び北海道特殊規格。~~

~~1-2 標準単価が適用できない範囲~~

- ~~(1) 設置作業のうち、ペイント式（手動）の場合。（ただし、北海道特殊規格において一部適用可）~~
- ~~(2) コンクリート舗装の上に設置された区画線、道路標示の消去の場合。~~
- ~~(3) その他、規格・仕様等が適合しない場合。~~

00-03-020 排水構造物工

~~1 適用範囲~~

~~1-1 標準単価が適用できる範囲~~

- ~~(1) 排水構造物工のうちプレキャスト製品によるU型側溝（V型側溝、落蓋型、鉄筋コンクリートベンチフランジュを含む）、自由勾配側溝及び蓋版の設置、再利用撤去工事に適用。~~

~~1-2 標準単価が適用できない範囲~~

- ~~(1) 再利用を目的としない側溝本体及び蓋版本体の撤去工事。~~
- ~~(2) 地すべり防止施設及び急傾斜崩壊対策施設（傾斜度が30度以上）における側溝の設置工事。~~
- ~~(3) その他、規格・仕様等が適合しない場合。~~

~~2 その他~~

~~「現場内小運搬を含む」となっている場合は、30m程度の小運搬を想定しており、これによりがたい場合は別途計上すること。~~

00-03-030 コンクリートブロック積工

~~1 適用範囲~~

~~1-1 標準単価が適用できる範囲~~

- ~~(1) 勾配が1割未満（1:1.0未満）の法面に施工するブロック積みで、JISタイプ（JISで規定する形状・寸法）の積ブロック（間知ブロック質量150kg/個未満）を使用する場合に適用する。~~

~~1-2 標準単価が適用できない範囲~~

- ~~(1) 積ブロック（間知ブロック質量150kg/個以上）を使用する場合。~~
- ~~(2) 作業半径が8.5mを超える場合、または吊上げ高さが5.8mを超える場合。~~
- ~~(3) 勾配が1割以上（1:1.0以上）の法面に施工する場合。~~
- ~~(4) JISタイプ以外の積ブロックを使用する場合。~~
- ~~(5) その他、規格・仕様等が適合しない場合。~~

~~2-※ その他~~

「現場内小運搬を含む」となっている場合は、20m程度の人力による小運搬を想定しており、これによりがたい場合は別途計上すること。

00-03-040 橋梁塗装工

~~1 適用範囲~~

~~1-1 標準単価が適用できる範囲~~

- ~~(1) 鋼橋の現場での新橋塗装・塗替塗装。~~
- ~~(2) 高欄部の単独施工の塗替塗装。~~
- ~~(3) 鋼橋架設工における新橋継手部現場塗装の素地調整、塗装。~~
- ~~(4) 既設橋梁の床版補強工における新規補強鋼板現場塗装工の中塗り、上塗り塗装。~~

~~1-2 標準単価が適用できない範囲~~

- ~~(1) 部分塗替え塗装の場合。~~
- ~~(2) 塗膜剥離剤による素地調整の場合。~~
- ~~(3) 道路付属物（標識・防護柵等）の塗装の場合。~~
- ~~(4) 静電気力を利用したスプレー塗装の場合。~~
- ~~(5) 工場内における塗装前作業および塗装作業の場合。~~
- ~~(6) その他、規格・仕様等が適合しない場合。~~

00-03-050 構造物とりこわし工

~~1 適用範囲~~

~~1-1 標準単価が適用できる範囲~~

- ~~(1) 河川、海岸、砂防、道路工事等の既設コンクリート構造物のとりこわし作業。~~
- ~~(2) とりこわし方法の主たる作業機械が、大型ブレイカ、コンクリートブレイカ、コンクリート圧砕機の場合。~~
- ~~(3) 施工基面（機械設置基面）より上下5m以内のとりこわし作業。~~

~~1-2 標準単価が適用できない範囲~~

- ~~(1) 建築物、舗装版のとりこわし作業及びブロック施工による旧橋撤去。~~
- ~~(2) 「橋梁地覆補修工」に伴う「とりこわし工」。~~
- ~~(3) 「構造物とりこわし工」に伴う「石積取壊し（人力）」及び「コンクリートはつり（平均はつり厚6cm以下）」。~~
- ~~(4) 施工基面（機械接地面）より上下5mを超える作業能力を有する機種を用いる場合。~~
- ~~(5) コブ抜きして内部を広げて破砕する場合。~~
- ~~(6) その他、規格・仕様が適合しない場合。~~

2) 林道事業の場合

① 掘削及び運搬等

バックホウ掘削の場合の横断流用土（距離20m以下）はバックホウの掘削積込経費（平均距離10m）を含むものとし、距離20m以上のダンプトラック運搬の場合には、距離10mを差し引くものとする。

② 掘削土量、地山勾配及び幅員による機種を選定

表2.2 作業機種の選定（林道事業）

作業区分	掘削土量10,000m ³ 未満				掘削土量10,000m ³ 以上			
	地山勾配2割より緩		地山勾配2割より急		地山勾配2割より緩		地山勾配2割より急	
	全幅員 3.6m以下	全幅員 3.6m超え	全幅員 3.6m以下	全幅員 3.6m超え	全幅員 3.6m以下	全幅員 3.6m超え	全幅員 3.6m以下	全幅員 3.6m超え
掘削	—	—	バックホウ 山積0.45m (平積0.35m)	バックホウ 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	—	—	バックホウ 山積0.45m (平積0.35m)	バックホウ 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)
盛土 敷均し	11tブル	15tブル	11tブル	15tブル	11tブル	21tブル	11tブル	21tブル
盛土 締め (舗装前 提の路床)	タイヤ ローラ 8~20t	15tブル 又は タイヤ ローラ 8~20t	タイヤ ローラ 8~20t	15tブル 又は タイヤ ローラ 8~20t	タイヤ ローラ 8~20t	21tブル 又は タイヤ ローラ 8~20t	タイヤ ローラ 8~20t	21tブル又 はタイヤ ローラ 8~20t
盛土 締め (路体)	11tブル	15tブル	11tブル	15tブル	11tブル	21tブル	11tブル	21tブル
捨土 均し	11tブル	15tブル	11tブル	15tブル	11tブル	21tブル	11tブル	21tブル
掘削 積込	バックホウ 山積0.45m (平積0.35m)	バックホウ 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	バックホウ 山積0.45m (平積0.35m)	バックホウ 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	バックホウ 山積0.45m (平積0.35m)	バックホウ 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	バックホウ 山積0.45m (平積0.35m)	バックホウ 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)

備考1 現場条件等により、本表により難しい場合は別途考慮すること。

2 過含水粘性土のような湿地ブルドーザしか施工不能の場合は、湿地ブルドーザとする。

3 施工幅員が2.5m以上4m未満の狭い箇所及び構造物付近の狭隘な箇所の敷均し等作業で、標準機種では施工が困難な場合は3tブルドーザを適用できる。

2) 林道事業の場合

表2.2 作業機械の選定 (林道事業)

作業区分			(地山) 掘削	(地山) 掘削積込	(ルーズ) 掘削積込	運搬	盛土 敷均し	盛土締固め (舗装前提 の路床)	盛土締固め (路体)	
地山 横断 勾配	土質									
施工 土量 5 0 0 m3 未 満	2 割 未 満	土砂	バックホウ 山積0.45m3 (平積0.35m3)	バックホウ 山積0.45m3 (平積0.35m3)	バックホウ 山積0.45m3 (平積0.35m3)	ダンプトラック 又は 不整地 運搬車	表2.3	表2.3	表2.3	
		岩石	01-03-010							
	2 割 以 上	土砂	バックホウ 山積0.45m3 (平積0.35m3)		バックホウ 山積0.45m3 (平積0.35m3)					
		岩石	01-03-010		バックホウ 山積0.45m3 (平積0.35m3)					
施工 土量 5 0 0 m3 以 上	制限 あり	2 割 未 満	土砂	バックホウ 山積0.45m3 (平積0.35m3)	バックホウ 山積0.45m3 (平積0.35m3)	ダンプトラック 又は 不整地 運搬車	表2.3	表2.3	表2.3	
		岩石	01-03-010		バックホウ 山積0.45m3 (平積0.35m3)					
		2 割 以 上	土砂	バックホウ 山積0.45m3 (平積0.35m3)						バックホウ 山積0.45m3 (平積0.35m3)
			岩石	01-03-010						バックホウ 山積0.45m3 (平積0.35m3)
	制限 なし	2 割 未 満	土砂	バックホウ 山積0.8m3 (平積0.6m3)	バックホウ 山積0.8m3 (平積0.6m3)	バックホウ 山積0.8m3 (平積0.6m3)	ダンプトラック 又は 不整地 運搬車	表2.3	表2.3	表2.3
			岩石	01-03-010						
		2 割 以 上	土砂	バックホウ 山積0.8m3 (平積0.6m3)		バックホウ 山積0.8m3 (平積0.6m3)				
			岩石	01-03-010		バックホウ 山積0.8m3 (平積0.6m3)				

- 注 1 現場条件等により、本表により難しい場合は別途考慮すること。
 2 作業区分の施工土量とは、切土総数量(掘削土量)によること。
 3 作業区分の制限は、制限あり：全幅員3.6m以下、制限なし：全幅員3.6m超えとする。
 ※上記により作業機械(バックホウ)を選定した場合、現場条件の内容区分は「障害なし」を適用。
 4 岩石の掘削は、01-03-010の岩石掘削工法の選定によること。
 5 バックホウ掘削・積込経費に平均距離10mが含むものとし、縦断流用による距離20m以上のダンプトラック運搬等の場合には、距離10mを差し引くものとする。
 6 運搬は、バックホウとダンプトラックによる組合せを標準とするが、機械の走行性等が確保できない場合は、不整地運搬車を適用することができる。

表2.3 盛土機械の選定（林道事業）

施工幅員	区分	施工数量	敷均し締固め機械・機種	
			敷均し	締固め
4. 0m以上	路体	10,000m ³ 未満	ブルドーザ 15t級	ブルドーザ 15t級
		10,000m ³ 以上	ブルドーザ 21t級	ブルドーザ 21t級
		トラフィカビリティが不足して普通ブルドーザが使用出来ない場合等	湿地ブルドーザ 16t級	湿地ブルドーザ 16t級
	路床	10,000m ³ 未満	ブルドーザ 15t級	タイヤローラ 8～20t級
		10,000m ³ 以上	ブルドーザ 21t級	タイヤローラ 8～20t級
※2. 5m以上 4. 0m未満	路体	—	振動ローラ・コンパインド式 3～4t バックホウ山積み0.28m ³ （平積み0.2m ³ ）	
	路床	—	振動ローラ・コンパインド式 3～4t バックホウ山積み0.28m ³ （平積み0.2m ³ ）	
※2. 5m未満	路体	—	振動ローラ・ハンドガイド式 0.8～1.1t	
	路床	—	振動ローラ・ハンドガイド式 0.8～1.1t	

注 1 現場条件等により、本表により難しい場合は別途考慮すること。

2 ※は「20 施工パッケージ No.4路体（築堤）盛土、No.5 路床盛土」による。

3 施工幅員は全幅員によること。

なお、林業作業用施設の施工幅員は、施設上部の横断幅によること。

4 施工数量とは、盛土総数量によること。

③ 機械掘削及び積込

車道開設工事における掘削積込及び積込に係る機種の選定は、工事施工区間の横断方向の地山勾配を2割以上、2割未満に区分し次表を標準とする。

ア) 2割以上 表2.3 機種の選定（地山勾配2割以上）

土質区分	地山処理		ルーズ処理	
	作業種	作業機械	作業種	作業機械
岩石	掘削	ブレーカ	積込 運搬	バックホウ +ダンプトラック
		バックホウ		
土砂				

イ) 2割未満

表2.4 機種の選定（地山勾配2割未満）

土質区分	地山処理		地山ルーズ処理	
	作業種	作業機械	作業種	作業機械
岩石	掘削	リッパ又は ブレーカ	積込 運搬	(ルーズ) バックホウ +ダンプトラック
土砂			掘削積込 運搬	(地山) バックホウ +ダンプトラック

備考 制限林等林地保全上、特に配慮する必要がある場合及び小規模工事については、ア)の基準を適用できるものとする。

④ 運搬

~~土の運搬は、バックホウとダンプトラックによる組合せを標準とするが、トラフィカビリティが確保できない場合は、不整地運搬車を適用することができる。~~

3) 機械損料の補正

岩石工に係る機械損料の補正は、01-03-020によるものとする。

01-01-060 ブルドーザ捨土敷均し (山地治山土工)
一般土工は「20 施工パッケージ No.03 整地」による。

表1.1 ブルドーザ捨土均し歩掛 (m³/h・h/100m³)

機種 名称	単 位	11トン (第1次基準値)	15トン (第1次基準値)	21トン (第1次基準値)	湿地13トン (第1次基準値)	湿地16トン (第1次基準値)
作 業 量	m ³ /h	114	130	190	107	130
作 業 時 間	h/100m ³	0.88	0.77	0.53	0.93	0.77

01-01-080 ブルドーザ不陸均し (SQ0101)

表1.1 ブルドーザ不陸均し歩掛 (m²/h・h/100m²)

機種 名称	単 位	3トン (第1次基準値)	11トン (第1次基準値)	15トン (第1次基準値)	21トン (第1次基準値)
作 業 量	m ² /h	200	316	360	525
作 業 時 間	h/100m ²	0.50	0.32	0.28	0.19

備考 機種を選定は、原則として土工機種に合わせる。

~~01-01-090 ブルドーザ河床均し~~

~~表1.1 ブルドーザ河床均し歩掛 (m²/h・h/100m²)~~

機種 名称	単 位	3トン (第1次基準値)	11トン (第1次基準値)	15トン (第1次基準値)	湿地13トン (第1次基準値)
作 業 量	m ² /h	170	272	310	310
作 業 時 間	h/100m ²	0.59	0.37	0.32	0.32

~~備考 機種を選定は、原則として土工機種に合わせる。~~

01-01-200 バックホウ掘削（治山事業）（SPK102）

(1) 日当たり作業量

バックホウによる各作業の日当たり作業量は、次表を標準とする。

表1.1 日当たり作業量（治山事業）

（1日当たり）

作業種別	制限の有無	山地治山工区分	工種区分	名称	規格	土質名	単位	数量		
								障害なし 良好	普通	障害あり 不良
地山の掘削・積込	あり	A	溪間工	バックホウ（クローラ型）運転	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値） 山積0.45m3（平積0.35m3）	砂・砂質土・粘性土・礫質土	m3	97	<u>84</u>	67
						岩塊・玉石・軟岩（I）A	m3	77	<u>67</u>	48
			砂・砂質土・粘性土・礫質土			m3	67	<u>58</u>	48	
			岩塊・玉石・軟岩（I）A			m3	48	<u>42</u>	39	
		B	溪間工			砂・砂質土・粘性土・礫質土	m3	110	<u>96</u>	77
						岩塊・玉石・軟岩（I）A	m3	86	<u>75</u>	58
			山腹工			砂・砂質土・粘性土・礫質土	m3	77	<u>67</u>	58
						岩塊・玉石・軟岩（I）A	m3	58	<u>50</u>	48
	なし	A	溪間工	バックホウ（クローラ型）運転	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値） 山積0.80m3（平積0.6m3）	砂・砂質土・粘性土・礫質土	m3	170	<u>148</u>	120
						岩塊・玉石・軟岩（I）A	m3	130	<u>113</u>	84
			砂・砂質土・粘性土・礫質土			m3	120	<u>104</u>	84	
			岩塊・玉石・軟岩（I）A			m3	84	<u>73</u>	67	
		B	溪間工			砂・砂質土・粘性土・礫質土	m3	180	<u>157</u>	130
						岩塊・玉石・軟岩（I）A	m3	150	<u>131</u>	100
山腹工	砂・砂質土・粘性土・礫質土	m3	130	<u>113</u>	100					
	岩塊・玉石・軟岩（I）A	m3	100	<u>87</u>	84					

作業種別	制限の有無	山地治山工区分	工種区分	名称	規格	土質名	単位	数量			
								障害あり 良好	普通	障害あり 不良	
ルーズな状態の積込	あり	A	溪間工	バックホウ(クローラ型)運転	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)山積0.45m3(平積0.35m3)	砂・砂質土・粘性土・礫質土・軟岩(I)A	m3	110	<u>96</u>	77	
						岩塊・玉石	m3	86	<u>75</u>	58	
			破碎岩			m3	67	<u>58</u>	39		
			砂・砂質土・粘性土・礫質土・軟岩(I)A			m3	77	<u>67</u>	58		
		岩塊・玉石	m3			58	<u>50</u>	48			
		破碎岩	m3			39	<u>34</u>	28			
		山腹工	溪間工			砂・砂質土・粘性土・礫質土・軟岩(I)A	m3	120	<u>104</u>	86	
						岩塊・玉石	m3	97	<u>84</u>	67	
		山腹工	山腹工			破碎岩	m3	77	<u>67</u>	48	
						砂・砂質土・粘性土・礫質土・軟岩(I)A	m3	86	<u>75</u>	67	
	なし	A	溪間工	バックホウ(クローラ型)運転	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)山積0.80m3(平積0.6m3)	砂・砂質土・粘性土・礫質土・軟岩(I)A	m3	180	<u>157</u>	130	
						岩塊・玉石	m3	150	<u>131</u>	100	
			破碎岩			m3	120	<u>104</u>	67		
			砂・砂質土・粘性土・礫質土・軟岩(I)A			m3	130	<u>113</u>	100		
		山腹工	山腹工			岩塊・玉石	m3	100	<u>87</u>	84	
						破碎岩	m3	67	<u>58</u>	50	
		B	溪間工			山腹工	砂・砂質土・粘性土・礫質土・軟岩(I)A	m3	200	<u>174</u>	150
							岩塊・玉石	m3	170	<u>148</u>	120
		山腹工	山腹工			破碎岩	m3	130	<u>113</u>	84	
						砂・砂質土・粘性土・礫質土・軟岩(I)A	m3	150	<u>131</u>	120	
山腹工	山腹工	岩塊・玉石	m3	120	<u>104</u>	100					
		破碎岩	m3	84	<u>73</u>	67					

(注) 1 制限の内容

制限あり：狭隘で旋回範囲に制限があり、バックホウ山積0.8m3(平積0.6m3)における作業が困難な場合

制限なし：上記以外のバックホウ山積0.8m3(平積0.6m3)での作業が可能な場合

2 現場条件の内容

~~障害なし~~ 良好：作業現場が広く、掘削深さが最適であり、地盤山が緩んでいて、七かもかつ作業妨害が少なく連続作業が可能等の良好な現場条件がそろっている場合。

~~または、掘削深が最適でも地山が固い場合又は掘削深さが最適でなくても土が緩んでいる場合等、下記の障害ありに該当しない場合。~~

~~障害あり~~ 不良：作業現場が狭く、掘削深さが最適でなく又は、地山が固く、かつ連続作業が困難で作業妨害が多い等の不良な現場条件がそろっている場合。床掘作業で土留矢板、切梁・腹起し、基礎杭等があつて作業妨害となる場合。

普通：作業現場の広さ、掘削深さ、地山の固さ、作業妨害の影響などの現場条件が中位と考えられる場合。

3 破碎岩とは、中硬岩及び硬岩を破碎したものをいう。

01-01-210 バックホウ掘削（一般土工）（SPR207）

(1) 日当たり作業量

バックホウによる各作業の日当たり作業量は、次表を標準とする。

表2.1 日当たり作業量（一般土工）

（1日当たり）

作業種別	施工土量	制限の有無	名称	規格	土質名	単位	数量	
							障害なし	障害あり
地山の掘削	<u>林道工事における5,000m3未満</u>	-	<u>バックホウ(クローラ型)運転</u>	<u>後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制)</u> <u>山積0.45m3(平積0.35m3)</u>	<u>砂・砂質土・粘性土・礫質土</u>	<u>m3</u>	<u>97</u>	<u>73</u>
					<u>岩塊・玉石・軟岩(I)A</u>	<u>m3</u>	<u>73</u>	<u>48</u>
	10,000 m3未満	あり	バックホウ(クローラ型)運転	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m3(平積0.35m3)	砂・砂質土・粘性土・礫質土	m3	131	98
					岩塊・玉石・軟岩(I)A	m3	98	65
		なし		標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.8m3(平積0.6m3)	砂・砂質土・粘性土・礫質土	m3	228	170
					岩塊・玉石・軟岩(I)A	m3	170	113
	10,000 m3以上 50,000 m3未満	あり	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m3(平積0.35m3)	砂・砂質土・粘性土・礫質土	m3	154	115	
		岩塊・玉石・軟岩(I)A		m3	115	76		
	なし	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.8m3(平積0.6m3)	砂・砂質土・粘性土・礫質土	m3	267	200		
			岩塊・玉石・軟岩(I)A	m3	200	133		
地山の掘削積込	<u>林道工事における5,000m3未満</u>	-	<u>バックホウ(クローラ型)運転</u>	<u>後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制)</u> <u>山積0.45m3(平積0.35m3)</u>	<u>砂・砂質土・粘性土・礫質土</u>	<u>m3</u>	<u>83</u>	<u>62</u>
					<u>岩塊・玉石・軟岩(I)A</u>	<u>m3</u>	<u>62</u>	<u>41</u>
	10,000 m3未満	あり	バックホウ(クローラ型)運転	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m3(平積0.35m3)	砂・砂質土・粘性土・礫質土	m3	112	84
					岩塊・玉石・軟岩(I)A	m3	84	56
		なし		標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.80m3(平積0.6m3)	砂・砂質土・粘性土・礫質土	m3	195	146
					岩塊・玉石・軟岩(I)A	m3	146	97
	10,000 m3以上 50,000 m3未満	あり	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m3(平積0.35m3)	砂・砂質土・粘性土・礫質土	m3	132	98	
		岩塊・玉石・軟岩(I)A		m3	98	66		
	なし	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.80m3(平積0.6m3)	砂・砂質土・粘性土・礫質土	m3	229	171		
			岩塊・玉石・軟岩(I)A	m3	171	114		

ルーズな状態の積込	<u>林道工事における5,000m³未満</u>	—	<u>バックホウ(クローラ型)運転</u>	<u>後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制)</u> <u>山積0.45m³(平積0.35m³)</u>	<u>砂・砂質土・粘性土・礫質土・軟岩(Ⅰ)A</u> <u>岩塊・玉石・破碎岩</u>	<u>m³</u>	<u>90</u>	<u>70</u>
	10,000 m ³ 未満	あり	バックホウ(クローラ型)運転	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	砂・砂質土・粘性土・礫質土・軟岩(Ⅰ)A	m ³	122	94
						岩塊・玉石・破碎岩	m ³	94
		なし		標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)山積0.80m ³ (平積0.6m ³)	砂・砂質土・粘性土・礫質土・軟岩(Ⅰ)A	m ³	211	162
					岩塊・玉石・破碎岩	m ³	162	113
	10,000 m ³ 以上	あり		標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	砂・砂質土・粘性土・礫質土・軟岩(Ⅰ)A	m ³	143	110
						岩塊・玉石・破碎岩	m ³	110
	50,000 m ³ 未満	なし		標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)山積0.80m ³ (平積0.6m ³)	砂・砂質土・粘性土・礫質土・軟岩(Ⅰ)A	m ³	248	190
						岩塊・玉石・破碎岩	m ³	190

(注) 1 制限の内容

制限あり：狭隘で旋回範囲に制限がある場合

制限なし：上記以外の場合

2 現場条件の内容

障害なし：作業現場が広く、地盤が緩んでいて、しかも作業妨害が少なく連続作業が可能等の条件がそろっている場合。または、掘削深が最適でも地山が固い場合又は掘削深さが最適でなくても土が緩んでいる場合等、下記の障害ありに該当しない場合。

障害あり：作業現場が狭く、掘削深さが最適でなく又は地山が固く、かつ連続作業が困難で作業妨害が多い等の条件がそろっている場合。床掘作業で土留矢板、切梁・腹起し、基礎杭等があつて作業妨害となる場合。

3 破碎岩とは、中硬岩及び硬岩を破碎したものをいう。

4 林道工事における施工土量が5,000m³以上の場合は、上表の施工土量による日当たり施工量を適用する。

5 林道工事以外で施工土量が5,000m³未満の場合は、上表の施工土量10,000m³未満の日当た施工量を適用する。

(2) 単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型) 運 転	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)山積0.45m ³ (平積0.35m ³) 標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)山積0.8m ³ (平積0.6m ³) <u>後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制)山積0.45m³(平積0.35m³)</u>	日	100/D	表2.1
計				

備考 D：日当たり施工量

(3) 機械運転単価表

(運転日当たり)

機 械 名	規 格	指 定 事 項	適用機械工歩掛
バックホウ (クローラ型) (掘削、積込)	標準型・超低騒音型・排出 ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	運転労務数量→1.00(供用日) 燃料消費量→62 機械損料数量→1.46	02-01-285 02-01-296
バックホウ (クローラ型) (掘削、積込)	標準型・超低騒音型・排出 ガス対策型(第3次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	運転労務数量→1.00(供用日) 燃料消費量→100 機械損料数量→1.41	02-01-315 02-01-326
<u>バックホウ</u> <u>(クローラ型)</u> <u>(掘削、積込)</u>	<u>後方超小旋回型・超低騒音型</u> <u>・排出ガス対策型(2014年規</u> <u>制)山積0.45m³(平積0.35m³)</u>	<u>運転労務数量→1.00(供用日)</u> <u>燃料消費量→69</u> <u>機械損料数量→1.48</u>	<u>02-01-287</u> <u>02-01-297</u>

01-01-220 片切掘削(人力併用機械掘削)(SPR209、SPK104)

1 機種を選定

表1.1 機種を選定

作業内容	機 種	規 格	単 位	数 量
狭隘で旋回範囲に 制限がある場合	バックホウ (クローラ型)	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	台	1
上記以外の場合	バックホウ (クローラ型)	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	台	1
<u>林道工事</u>	<u>バックホウ</u> <u>(クローラ型)</u>	<u>後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス</u> <u>対策型(2014年規制)</u> <u>山積0.45m³(平積0.35m³)</u>	<u>台</u>	<u>1</u>

2 日当たり作業量

日当たり作業量は、次のとおりとする。

表2.1 日当たり作業量

制限の 有無	機 種	規 格	土 質 名	単位	数 量	
					山地治山工	一般土工
あり	バックホウ (クローラ型)	標準型・超低騒音型・排出 ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	砂・砂質土・粘性 土・礫質土	m ³	61	116
			岩塊・玉石・軟岩 (I)A	m ³	45	87
なし	バックホウ (クローラ型)	標準型・超低騒音型・排出 ガス対策型(第3次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	砂・砂質土・粘性 土・礫質土	m ³	110	233
			岩塊・玉石・軟岩 (I)A	m ³	81	175
<u>林道</u> <u>工事</u>	<u>バックホウ</u> <u>(クローラ型)</u>	<u>後方超小旋回型・超低騒音</u> <u>型・排出ガス対策型(2014</u> <u>年規制)</u> <u>山積0.45m³(平積0.35m³)</u>	<u>砂・砂質土・粘性</u> <u>土・礫質土</u>	<u>m³</u>	<u>116</u>	
			<u>岩塊・玉石</u> <u>・軟岩(I)A</u>	<u>m³</u>	<u>87</u>	

(注) 1 制限の内容

制限あり：狭隘で旋回範囲に制限がある場合

制限なし：上記以外の場合

2 本歩掛は掘削までとし、法面整形は含まない。

3 労務歩掛

労務歩掛は、次のとおりとする。

表2.2 労務歩掛 (10m3当たり)

制限の有無	名称	土質名	単位	数量	
				山地治山工	一般土工
あり	普通作業員	砂・砂質土・粘性土・礫質土	人	0.16	0.17
		岩塊・玉石・軟岩(I)A	人	0.22	0.25
なし	普通作業員	砂・砂質土・粘性土・礫質土	人	0.12	0.11
		岩塊・玉石・軟岩(I)A	人	0.16	0.16
<u>林道 工事</u>	<u>普通作業員</u>	<u>砂・砂質土・粘性土・礫質土</u>	<u>人</u>	<u>0.17</u>	
		<u>岩塊・玉石・軟岩(I)A</u>	<u>人</u>	<u>0.25</u>	

(注) 1 制限の内容

制限あり：狭隘で旋回範囲に制限がある場合

制限なし：上記以外の場合

2 本歩掛は掘削までとし、法面整形は含まない。

4 単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表2.2
バックホウ (クローラ型) 運 転	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m3(平積0.35m3) 標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.8m3(平積0.6m3) <u>後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制)山積0.45m3(平積0.35m3)</u>	日	10/D	表2.1
計				

備考 D：日当たり施工量

5 機械運転単価表

(1) 山地治山工

機械名	規格	指定事項	適用機械工歩掛
バックホウ (クローラ型) (片切掘削)	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m3(平積0.35m3)	運転労務数量→1.00(供用日) 燃料消費量→62 機械損料数量→1.54	02-01-350
バックホウ (クローラ型) (片切掘削)	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.8m3(平積0.6m3)	運転労務数量→1.00(供用日) 燃料消費量→100 機械損料数量→1.44	02-01-340

(2) 一般土工

機械名	規格	指定事項	適用機械工歩掛
バックホウ (クローラ型) (片切掘削)	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m3(平積0.35m3)	運転労務数量→1.00(供用日) 燃料消費量→62 機械損料数量→1.44	02-01-355
バックホウ (クローラ型) (片切掘削)	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.8m3(平積0.6m3)	運転労務数量→1.00(供用日) 燃料消費量→100 機械損料数量→1.52	02-01-345

(3) 林道工事

機械名	規格	指定事項	適用機械工歩掛
<u>バックホウ (クローラ型) (片切掘削)</u>	<u>後方超小旋回型・超低騒音型 ・排出ガス対策型(2014年規 制)山積0.45m3(平積0.35m3)</u>	<u>運転労務数量→1.00(供用日) 燃料消費量→69 機械損料数量→1.50</u>	<u>02-01-357</u>

表 1 運転1時間当たり燃料消費率（その1）

No	機 械 名	規 格	燃料消費率 ℓ/kW-h	摘 要
1	ブルドーザ	湿地を含む	0.153 <u>0.144</u>	
2	リッパ装置付ブルドーザ			
3	小型バックホウ			
4	バックホウ	ホイール式・ クローラ式		
5	クラムシエル			
6	クローラローダ			
7	ホイールローダ			0.158 <u>0.144</u>
8	バックホウ (クローラ型)	ディーゼル/電気 ハイブリッド型	0.128 <u>0.124</u>	
9	建設専用ダンプトラック		0.085 <u>0.088</u>	15 t 以上
10	ダンプトラック		0.043	
11	トラック		<u>0.040</u>	クレーン式トラック含む
12	トレーラ		0.075	
13	不整地運搬車	クローラ型	0.134 <u>0.114</u>	
14	クローラクレーン		0.076	
15	トラッククレーン	ラチスジブ型・ 油圧伸縮ジブ型	0.044 <u>0.045</u>	オールテレーンクレーン含む
16	ラフテレーンクレーン		0.088 <u>0.075</u>	
17	ディーゼルパイルハンマ		7.648 ℓ/h-t	t はラム重量
18	バイブロハンマ	電動式 油圧式・可変式	E 0.305kWh/kW 0.308 <u>0.262</u>	
19	杭打機（ベースマシン）		0.085 <u>0.088</u>	
20	杭打用ウォータージェット		0.192 E 0.533kWh/kW	
21	油圧ハンマ		0.181	
22	油圧式鋼管圧入引抜機 (ジャッキ)		E 0.305kWh/kW	
23 <u>22</u>	油圧式杭圧入引抜機		0.145 <u>0.123</u>	
24	アースオーガ		E 0.436kWh/kW	
25 <u>23</u>	アースオーガ中掘機		0.085 <u>0.088</u>	ベースマシン
26 <u>24</u>	クローラ式アースオーガ			
27 <u>25</u>	粉体噴射攪拌機	二軸式	E 0.436kWh/kW	装置
		単軸式	E 0.305kWh/kW	
		改良材供給機	E 0.533kWh/kW	
28 <u>26</u>	オールケーシング掘削機	1 エンジン (クローラ式)	0.181	
		2 エンジン (クローラ式)	0.093	
		スキッド式	0.104 <u>0.088</u>	
29	マッドスクリーナー		E 0.305kWh/kW	
30 <u>27</u>	泥排水処理装置	フィルタプレス式	E 0.560kWh/kW	
31 <u>28</u>	グラウトポンプ		0.207	
32 <u>29</u>	グラウトミキサ		E 0.613kWh/kW	
33 <u>30</u>	ボーリングマシン		0.151	
			E 0.429kWh/kW	

No	機 械 名	規 格	燃料消費率 ℓ/kW-h	摘 要
34 <u>31</u>	ドリルジャンボ	レール式	0.171 <u>0.177</u>	
		クローラ式	E0.415kWh/kW	
		ホイール式		
35 <u>32</u>	自由断面トンネル掘削機		E0.429kWh/kW	
36 <u>33</u>	NATM機器集じん機		E0.700kWh/kW	
37 <u>34</u>	コンクリート吹付機	トンネル工専用	E0.466kWh/kW	
38	急結剤供給装置			
39 <u>35</u>	吹付ロボット			
40 <u>36</u>	モーターグレーダ		0.108 <u>0.112</u>	ヒータプレーナ装着型を含む
41 <u>37</u>	スタビライザ		0.111 <u>0.115</u> E0.331kWh/kW	
42 <u>38</u>	ロードローラ		0.118 <u>0.128</u>	
43 <u>39</u>	タイヤローラ		0.085 <u>0.098</u>	
44 <u>40</u>	振動ローラ (舗装用)	ハンドガイド式	0.231 <u>0.266</u>	
		搭乗式	0.160 <u>0.184</u>	
45 <u>41</u>	タンバ及びランマ		G0.346 <u>0.398</u>	
46 <u>42</u>	振動コンパクタ			
47 <u>43</u>	コンクリートプラント		E0.495kWh/kW	
48	モルタルプラント			
49 <u>44</u>	ベントナイトミキサ			
50 <u>45</u>	トラックミキサ		0.059	
51 <u>46</u>	コンクリートポンプ車		0.078 <u>0.066</u>	
52 <u>47</u>	アスファルトフィニッシャー		0.147 <u>0.152</u>	加熱用燃料は含まない
53 <u>48</u>	ディストリビュータ		0.090	
54 <u>49</u>	コンクリートスプレッダ		0.122	
55 <u>50</u>	アグリゲートスプレッダ			
56 <u>51</u>	コンクリートフィニッシャー			
57 <u>52</u>	コンクリートレベラー			
58 <u>53</u>	フィニッシングスクリード		G0.227	
59 <u>54</u>	コンクリートカッタ			
60 <u>55</u>	アスファルトスフ ^レ レヤ			
61 <u>56</u>	アスファルトカーバ			
62 <u>57</u>	路面切削機		0.144 <u>0.166</u>	
63 <u>58</u>	廃材積込機		0.218	
64 <u>59</u>	路上表層再生機		0.142	
65 <u>60</u>	路面安全溝切削機 (グルーピング機械)			
66 <u>61</u>	路面ヒータ(路上表層 再生機組合せ用)		0.160	
67 <u>62</u>	路面清掃車		0.063 <u>0.065</u>	
68 <u>63</u>	ガードレール清掃車			
69 <u>64</u>	トンネル清掃車			
70 <u>65</u>	側溝清掃車		0.052 <u>0.054</u>	
71 <u>66</u>	排水管清掃車		0.044 <u>0.037</u>	
72 <u>67</u>	散水車			
73 <u>68</u>	高所作業車			
74 <u>69</u>	ガードレール支柱打込機		0.051	
75 <u>70</u>	草刈機	路肩カッタ付	0.071 <u>0.073</u>	

No	機 械 名	規 格	燃料消費率 ℓ/kW-h	摘 要
76 <u>71</u>	空 気 圧 縮 機	定置式・可搬式	0.187 <u>0.159</u> E 0.595kWh/kW	トンネル工事は別途
77 <u>72</u>	ブロー送風機 (ファン)		0.156 E 0.681kWh/kW	
78 <u>73</u>	軸 流 フ ァ ン	反軸流式・可変風流型	E 0.571 <u>kWh/kW</u>	
79 <u>74</u>	ポ ン プ		0.323	
80 <u>75</u>	小 型 う ず 巻 ポンプ		G 0.495 E 0.900kWh/kW	
81 <u>76</u>	工事用水中モータポンプ (潜 水 ポ ン プ)		E 0.584kWh/kW	
82 <u>77</u>	サ ン ド ポ ン プ			
83 <u>78</u>	発 動 発 電 機		0.145 <u>0.123</u> G 0.436 <u>0.431</u>	
84 <u>79</u>	ウ イ ン チ		0.108 E 0.305kWh/kW	
85 <u>80</u>	電 気 溶 接 機		0.261 <u>0.226</u> G 0.403	電気使用量はそれぞれの資料による
86 <u>81</u>	ベ ル ト コ ン ベ ア		0.293 G 0.512 E 0.560kWh/kW	
87 <u>82</u>	モ ル タ ル 吹 付 機		0.191	
88 <u>83</u>	作 業 車		0.038 <u>0.039</u>	
89 <u>84</u>	ラ イ ト バ ン	<u>二輪駆動</u>	0.047 <u>0.049</u>	
90	総 輪 駆 動 車	<u>四輪駆動</u>	G 0.047 <u>0.049</u>	
91 <u>85</u>	中 小 型 ト ラ ッ ク			
92 <u>86</u>	マ イ ク ロ バ ス		0.064 G 0.071	
93 <u>87</u>	草 刈 機	肩掛式 遠隔操縦式 ハンドガイド式	G 0.588 <u>0.500</u> 0.209 0.178 <u>0.184</u> G 0.354	
94 <u>88</u>	集 草 機	ハンドガイド式	0.178 G 0.354	
95 <u>89</u>	動 力 噴 霧 器		0.261 G 0.266	
96 <u>90</u>	<u>コンクリート</u> パイプレータ		G 0.347 <u>0.295</u> E 0.540kWh/kW	
97 <u>91</u>	照 明 機	可搬式	0.638	
98 <u>92</u>	ト ラ ク タ	ホイール式	0.120	
99 <u>93</u>	ポ ン プ 式 浚 渫 船		重油 0.381	
100 <u>94</u>	引 船		重油 0.252	
101 <u>95</u>	除 雪 ド ー ザ	ホイール式	0.153 <u>0.150</u>	
102 <u>96</u>	除 雪 グ レ ー ダ			
103 <u>97</u>	除 雪 ト ラ ッ ク		0.078 <u>0.073</u>	
104 <u>98</u>	小 型 除 雪 機	ハンドガイド式	0.193 G 0.356	
105 <u>99</u>	ロ ー タ リ ー 除 雪 機	30～180kW級 220～440kW級	0.137 <u>0.142</u> 0.114 <u>0.118</u>	
106 <u>100</u>	一 車 線 積 込 除 雪 車	<u>ロータリ式</u>	0.089 <u>0.092</u>	

107 101	凍結防止剤散布装置		0.090	
108 102	凍結防止材散布車		0.058 0.060	

備考 G：ガソリン E：電力
印のないものは、軽油である。

燃料消費量の算出例

0202 バックホウ

22 クローラ型・排出ガス対策型（第1次基準値） 060-1 山積0.8m³（平積0.6m³）の場合

$$\begin{array}{ccc}
 \text{別表第1 損料算定の機関出力の欄} & & \text{運転1時間当たり燃料消費率 (ℓ/kW-h)} \\
 \downarrow & & \downarrow \\
 104\text{kW} & \times & 0.175 \\
 \\
 \div 18.200 \rightarrow 18 \text{ ℓ/h} & & \\
 \uparrow & & \\
 \text{四捨五入} & &
 \end{array}$$

表1 運転1時間当たり燃料消費率（その2）

No	機 械 名	規 格	燃料消費率 ℓ/kW-h	摘 要
1	レ ー キ ド ー ザ		0.175	
2	ト ラ ク タ	クローラ式		
3	スクレープドーザ			
4	タイヤドーザ			
5	モータスクレーパ		0.163	
6	泥上掘削機		0.175	
7	トレンチャ		0.152	
8	ダンプトラック	ガソリン	G0.071	
9	不整地運搬車	ホイール型	0.160 0.165	
10	シヤトルカ		E0.560kWh/kW	
11 10	タワークレーン		0.101 E0.305kWh/kW	
12 11	ジブクレーン		E0.305kWh/kW	
13	三本溝リフト	モータウインチ		
14	一本溝リフト	モータウインチ		
15 12	工事用エレベータ			
16	門型タレ			
17 13	簡易ケーブルクレーン		0.108	
18 14	フォークリフト		0.037	
19 15	クローラ式 サンドパイル打機	ベースマシン装置	0.085 E0.305kWh/kW	<u>ベースマシン</u>
20	粉体噴射攪拌機	単軸式	E0.305kWh/kW	
21 16	トラック式アースオーガ		0.053	
22 17	ラフテレーンクレーン 装着式アースオーガ		0.103	
23 18	アースドリル掘削機		0.093	
24	サブスリキョレ シヨンドリル		E0.426kWh/kW	フロント装置吊上げタレ 杭打機（ベースマシン）を適用
25	杭打やぐら		E0.305kWh/kW	
26	サイタロン			

27	サクションポンプ		E0.900kWh/kW	
28	圧送ポンプ			

No	機 械 名	規 格	燃料消費率 ℓ/kW-h	摘 要
29	安定液ミキサー		E0.593kWh/kW	
30	泥排水処理装置	バルトプレス式	E0.871kWh/kW	
31 <u>19</u>	汚泥吸排車		0.053 <u>0.055</u>	
32 <u>20</u>	ニューマチックケーソン 施工機器 (潜函用シヨベル)		E0.600kWh/kW	
33 <u>21</u>	クリーニングタワー		E0.700kWh/kW	
34	シールド工事用機器	パワユニット	E0.533kWh/kW	
35	一次分離器			
36	泥水槽			
37	粘土焙解槽		E0.900kWh/kW	
38	高分子凝集剤溶解槽			
39	スラリーポンプ			
40 <u>22</u>	インナーバイブレータ	自走式	0.122	
41 <u>23</u>	コンクリートミキサ		E0.495kWh/kW	
42	コンクリートポンプ		E0.410kWh/kW	
43 <u>24</u>	法面締固機		0.167	
44 <u>25</u>	チップスプレッダ		0.127	
45 <u>26</u>	アスファルトクッカ		0.164	
46 <u>27</u>	コンクリート横取機		0.293	
47 <u>28</u>	振動目地切機		G0.233	
48 <u>29</u>	区画線消去機	ハンドガイド式	G0.233	
49 <u>30</u>	ラインマーカ	ペイント・ハンド ガイド 溶融自走式 ペイント自走式 ペイント車載式	G0.233 0.068	
50 <u>31</u>	溶解槽			
51 <u>32</u>	排水性舗装機能回復車		0.063	
52 <u>33</u>	透光生遮音壁清掃車		0.040	
53 <u>34</u>	歩道清掃車			
54 <u>35</u>	排水管清掃車	CNG	C0.043m3/kW-h	
55 <u>36</u>	小型多段遠心ポンプ		E0.900kWh/kW	
56 <u>37</u>	真空ポンプ		<u>0.827kWh/kW</u>	
57	電動ホイスト			
58	チェンブロッカ(電動式)		E0.305kWh/kW	
59	土砂排出機			
60	簡易やぐら			
61 <u>38</u>	両端固定式ケーブル クレーン		E0.305kWh/kW 0.108	
62	ムカデコンベヤ		E0.560kWh/kW	
63 <u>39</u>	油圧ジャッキ		E0.533kWh/kW	
64 <u>40</u>	コンクリート吹付機		E0.410kWh/kW	
65	急結剤供給装置(吹付機用)			
66 <u>41</u>	種子吹付機		0.191	
67 <u>42</u>	エンジン付ミキサ		G0.162	

68 <u>43</u>	工 事 用 高 圧 洗 浄 機		E 0. 900kWh/kW G 0. 255	
-------------------------	-----------------	--	----------------------------	--

No	機 械 名	規 格	燃料消費率 ℓ/kW-h	摘 要
69 <u>44</u>	薬 剤 散 布 機		0. 103	
70	エ レ ク タ		E 0. 255kWh/kW	
71 <u>45</u>	切 断 機		E 0. 305kWh/kW	
72 <u>46</u>	草 結 束 機		G 0. 515	
73 <u>47</u>	木 材 破 碎 機		0. 185	
74 <u>48</u>	自 走 式 破 碎 機		<u>0. 191</u>	
75 <u>49</u>	チ ェ ン ソ ー		G 0. 450 <u>0. 380/h</u>	左記は時間当たり燃料消費量である
76 <u>50</u>	ポ ン プ 浚 渫 船		E 1. 217kWh/kW	
77 <u>51</u>	除 雪 ド ー ザ	クローラ型	0. 166	
78 <u>52</u>	ロ ー タ リ ー 除 雪 装 置		0. 141	ロータリー式88kWベースマシン (除雪ドーザ)

備考 1 本表を使用して算定する燃料消費量は、次式により求める。

時間当たり燃料消費量＝機関出力×時間当たり燃料消費率

- 2 時間当たり燃料消費量の数値は、有効数字の第3位を四捨五入し、有効数字2桁とする。
- 3 日常の保守点検等に必要の油脂類及び消耗品等は、時間当たり燃料消費率に含むものとする。
- 4 走行用エンジン及び作業用エンジンの双方を有する機械は、双方のエンジン出力を合算し機関出力とすること。
- 5 本表のGはガソリン、Eは電力、Cは圧縮天然ガス、印のないものは軽油である。

02-01 土工機械運転

02-01-010 ブルドーザ運転

3 tブル 土砂・軟岩 I (A) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	4.40 4.20	29kW× 0.153 0.144
運転手 (特殊)	人	0.19	1/5.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

02-01-030 ブルドーザ運転

3 tブル 破碎岩 (中硬岩・硬岩) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	4.40 4.20	29kW× 0.153 0.144
運転手 (特殊)	人	0.19	1/5.3h
機械損料(+0.25)	時 間	1.00	
計			

02-01-040 ブルドーザ運転

11 tブル 土砂・軟岩 I (A) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	12.00 11.00	78kW× 0.153 0.144
運転手 (特殊)	人	0.19	1/5.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

02-01-060 ブルドーザ運転

11 tブル 破碎岩 (中硬岩・硬岩) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	12.00 11.00	78kW× 0.153 0.144
運転手 (特殊)	人	0.19	1/5.3h
機械損料(+0.25)	時 間	1.00	
計			

02-01-070 ブルドーザ運転

15 tブル 土砂・軟岩 I (A) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	15.00 14.00	100kW× 0.153 0.144
運転手 (特殊)	人	0.19	1/5.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

02-01-090 ブルドーザ運転

15 tブル 破碎岩 (中硬岩・硬岩) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	15.00 14.00	100kW× 0.153 0.144
運転手 (特殊)	人	0.19	1/5.3h
機械損料(+0.25)	時 間	1.00	
計			

02-01-100 ブルドーザ運転

21 tブル 土砂・軟岩 I (A) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	23.00 22.00	152kW× 0.153 0.144
運転手 (特殊)	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

02-01-160 ブルドーザ運転

13 t湿地ブル 土砂・軟岩 I (A) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	12.00 11.00	78kW× 0.153 0.144
運転手 (特殊)	人	0.19	1/5.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

02-01-190 ブルドーザ運転

16 t湿地ブル 土砂・軟岩 I (A) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	16.00 15.00	102kW× 0.153 0.144
運転手 (特殊)	人	0.19	1/5.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

02-01-220 ブルドーザ運転

3 tブル (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	25	指定事項
運転手 (特殊)	人	1.00	指定事項
機 械 損 料	供用日	1.56	指定事項 排出ガス対策型 (第1次基準値)
計			

備考：01-01-040 盛土敷均しに適用する。

02-01-222 振動ローラ運転

コンバインド型 3~4 t (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	15	指定事項
運転手 (特殊)	人	1.00	指定事項
機 械 賃 料	供用日	1.60	指定事項 排出ガス対策型 (第1次基準値)
計			

備考：01-01-045 盛土締固めに適用する。

02-01-224 振動ローラ運転

ハンドガイド式 0.8~1.1 t (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	5.3	指定事項
特 殊 作 業 員	人	1.00	指定事項
機 械 賃 料	日	1.44	指定事項
計			

備考：01-01-045 盛土締固めに適用する。

02-01-230 タイヤローラ運転

8～20 t (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	6.66 7.00	71kW× 0.085 0.098
運転手(特殊)	人	0.20	1/5.1h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

02-01-240 バックホウ運転

クローラ型 0.28m³(0.20m³) 土砂・軟岩 I (A) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	6.36 5.90	41kW× 0.153 0.144
運転手(特殊)	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

02-01-270 バックホウ運転

クローラ型 0.45m³(0.35m³) 土砂・軟岩 I (A) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	9.26 8.60	60kW× 0.153 0.144
運転手(特殊)	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	排出ガス対策型(第1次基準値)
計			

02-01-275 バックホウ運転

クローラ型 0.45m³(0.35m³) 土砂・軟岩 I (A) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	9.26 8.60	60kW× 0.153 0.144
運転手(特殊)	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	排出ガス対策型(第2次基準値)
計			

02-01-280 バックホウ運転

クローラ型 0.45m³(0.35m³) 標準型 土砂・軟岩 I (A) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	62	指定事項
運転手(特殊)	人	1.00	指定事項
機 械 損 料	供用日	1.52	指定事項 超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)
計			

備考：01-01-200 バックホウ掘削(治山事業)に適用する。

02-01-285 バックホウ運転

クローラ型 0.45m³(0.35m³) 標準型 土砂・軟岩 I (A) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	62	指定事項
運転手(特殊)	人	1.00	指定事項
機 械 損 料	供用日	1.46	指定事項 超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)
計			

備考：01-01-210 バックホウ掘削(一般土工)に適用する。

02-01-287 バックホウ運転

クローラ型 0.45m³(0.35m³) 後方超小旋回型 土砂・軟岩 I (A) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	69	指定事項
運転手 (特殊)	人	1.00	指定事項
機 械 損 料	供用日	1.48	指定事項 超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制)
計			

備考：01-01-210 バックホウ掘削（一般土工：林道工事における5,000m³未満）に適用する。

02-01-290 バックホウ運転

クローラ型 0.45m³(0.35m³) 破砕岩（中硬岩・硬岩） (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	9.20 0.60	60kW× 0.15 0.144
運転手 (特殊)	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料 (+0.25)	時間	1.00	排出ガス対策型(第1次基準値)
計			

02-01-295 バックホウ運転

クローラ型 0.45m³(0.35m³) 標準型 破砕岩（中硬岩・硬岩） (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	62	指定事項
運転手 (特殊)	人	1.00	指定事項
機 械 損 料 (+0.25)	供用日	1.52	指定事項 超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)
計			

備考：01-01-200 バックホウ掘削（治山事業）に適用する。

02-01-296 バックホウ運転

クローラ型 0.45m³(0.35m³) 標準型 破砕岩（中硬岩・硬岩） (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	62	指定事項
運転手 (特殊)	人	1.00	指定事項
機 械 損 料 (+0.25)	供用日	1.46	指定事項 超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)
計			

備考：01-01-210 バックホウ掘削（一般土工）に適用する。

02-01-297 バックホウ運転

クローラ型 0.45m³(0.35m³) 後方超小旋回型 破砕岩（中硬岩・硬岩） (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	69	指定事項
運転手 (特殊)	人	1.00	指定事項
機 械 損 料 (+0.25)	供用日	1.48	指定事項 超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制)
計			

備考：01-01-210 バックホウ掘削（一般土工：林道工事における5,000m³未満）に適用する。

02-01-300 バックホウ運転

クローラ型 0.80m³(0.60m³) 土砂・軟岩 I (A) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	16.00 15.00	104kW× 0.15 0.144
運転手 (特殊)	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料	時間	1.00	排出ガス対策型(第2次基準値)
計			

02-01-305 バックハウ運転

クローラ型 0.80m3(0.60m3) 土砂・軟岩 I (A) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	16.00 15.00	104kW× 0.153 0.144
運転手 (特殊)	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料	時間	1.00	超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)
計			

備考：01-03-240 人力併用機械掘削（片切）に適用する。

02-01-310 バックハウ運転

クローラ型 0.80m3(0.60m3) 標準型 土砂・軟岩 I (A) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	100	指定事項
運転手 (特殊)	人	1.00	指定事項
機 械 損 料	供用日	1.46	指定事項 超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)
計			

備考：01-01-200 バックハウ掘削（治山事業）に適用する。

02-01-315 バックハウ運転

クローラ型 0.80m3(0.60m3) 標準型 土砂・軟岩 I (A) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	100	指定事項
運転手 (特殊)	人	1.00	指定事項
機 械 損 料	供用日	1.41	指定事項 超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)
計			

備考：01-01-210 バックハウ掘削（一般土工）に適用する。

02-01-320 バックハウ運転

クローラ型 0.80m3(0.60m3) 破碎岩（中硬岩・硬岩）(時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	16.00 15.00	104kW× 0.153 0.144
運転手 (特殊)	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料 (+0.25)	時間	1.00	排出ガス対策型(第2次基準値)
計			

02-01-325 バックハウ運転

クローラ型 0.80m3(0.60m3) 標準型 破碎岩（中硬岩・硬岩）(日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	100	指定事項
運転手 (特殊)	人	1.00	指定事項
機 械 損 料 (+0.25)	供用日	1.46	指定事項 超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)
計			

備考：01-01-200 バックハウ掘削（治山事業）に適用する。

02-01-326 バックハウ運転

クローラ型 0.80m3(0.60m3) 標準型 破碎岩（中硬岩・硬岩）(日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	100	指定事項
運転手 (特殊)	人	1.00	指定事項
機 械 損 料 (+0.25)	供用日	1.41	指定事項 超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)
計			

備考：01-01-210 バックハウ掘削（一般土工）に適用する。

02-01-340 バックハウ運転

クローラ型 0.80m³(0.60m³) 標準型 土砂・軟岩 I (A) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	100	指定事項
運転手 (特殊)	人	1.00	指定事項
機 械 損 料	供用日	1.44	指定事項 超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)
計			

備考：01-01-220 片切掘削（人力併用機械掘削）に適用する。

02-01-345 バックハウ運転

クローラ型 0.80m³(0.60m³) 標準型 土砂・軟岩 I (A) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	100	指定事項
運転手 (特殊)	人	1.00	指定事項
機 械 損 料	供用日	1.52	指定事項 超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)
計			

備考：01-01-220 片切掘削（人力併用機械掘削）に適用する。

02-01-350 バックハウ運転

クローラ型 0.45m³(0.35m³) 標準型 土砂・軟岩 I (A) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	62	指定事項
運転手 (特殊)	人	1.00	指定事項
機 械 損 料	供用日	1.54	指定事項 超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)
計			

備考：01-01-220 片切掘削（人力併用機械掘削）に適用する。

02-01-355 バックハウ運転

クローラ型 0.45m³(0.35m³) 標準型 土砂・軟岩 I (A) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	62	指定事項
運転手 (特殊)	人	1.00	指定事項
機 械 損 料	供用日	1.44	指定事項 超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)
計			

備考：01-01-220 片切掘削（人力併用機械掘削）に適用する。

02-01-357 バックハウ運転クローラ型 0.45m³(0.35m³) 後方超小旋回型 土砂・軟岩 I (A) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	69	指定事項
運転手 (特殊)	人	1.00	指定事項
機 械 損 料	供用日	1.50	指定事項 超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制)
計			

備考：01-01-220 片切掘削（人力併用機械掘削：林道工事）に適用する。

02-01-360 バックハウ運転

クローラ型 0.80m³(0.60m³) 標準型 土砂・軟岩 I (A) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	100	指定事項
運転手 (特殊)	人	1.00	〃
機 械 損 料	供用日	1.48	〃 超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)
計			

備考：01-01-250 作業土工 (床掘工) に適用する。

02-01-365 バックハウ運転

クローラ型 0.45m³(0.35m³) 標準型 土砂・軟岩 I (A) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	62	指定事項
運転手 (特殊)	人	1.00	〃
機 械 損 料	供用日	1.38	〃 超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)
計			

備考：01-01-250 作業土工 (床掘工) に適用する。

02-01-380 タンパ運転

60～80kg級 (法面用) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
ガ ソ リ ン	ℓ	5.00 6.00	3.0kW× 0.340 0.398×5.0時間
特殊作業員	人	1.00	
機 械 損 料	日	1.00	
計			5.0h/日運転

備考：01-02-320 人力盛土法面整形 (土羽打) に適用する。

02-01-385 タンパ運転

60～80kg級 (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
ガ ソ リ ン	ℓ	4.50	指定事項
特殊作業員	人	1.00	指定事項
機 械 賃 料	日	1.38	指定事項
計			

備考：01-01-600 機械埋戻工 (林道事業) に適用する。

02-01-390 ベルトコンベア運転

エンジン駆動 7 m (土工・法面用) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
ガ ソ リ ン	ℓ	7.80	1.3ℓ (=2.6kW×0.512) ×6.0 h
			特殊作業員は作業歩掛に含む
機 械 損 料	日	1.00	
計			6.0h/日運転

02-01-400 空気圧縮機運転

(可搬式・エンジン掛) 5.0m³/分 (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	33.00 28.00	7.36.2ℓ (=39kW×0.1870.159) ×4.5 h
機 械 賃 料	日	1.00	
計			4.5h/日運転

備考：01-03-110 火薬使用の岩石掘削 (山地治山工)、01-03-230 火薬併用機械掘削 (片切)、01-03-240 人力併用機械掘削 (片切)、01-03-250 人力掘削 (片切) に適用する。

02-01-410 空気圧縮機運転

(可搬式・エンジン掛) 5.0m³/分 (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	11.00 37.00	7.36.20 (=39kW× 0.187 0.159) ×6.0h
機 械 賃 料	日	1.00	
計			6.0h/日運転

備考：01-03-120 人力掘削 (山地治山工) に適用する。

02-01-430 大型ブレーカ運転

600～800kg級 軟岩 I (B)・軟岩 II (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	9.20 9.40	605 605kW× 0.153 0.144
運転手 (特殊)	人	0.16	1/6.3h
機械損料(+0.10)	時 間	1.00	バックホウ0.45m ³ (0.35m ³) 超低騒音型 排出ガス対策型 (第3次基準値)
機 械 損 料	日	0.16	大型ブレーカ
計			

備考：01-03-130 大型ブレーカ掘削 (山地治山工) に適用する。

02-01-440 大型ブレーカ運転

600～800kg級 中硬岩・硬岩 (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	9.20 9.40	605 605kW× 0.153 0.144
運転手 (特殊)	人	0.16	1/6.3h
機械損料(+0.25)	時 間	1.00	バックホウ0.45m ³ (0.35m ³) 超低騒音型 排出ガス対策型 (第3次基準値)
機 械 損 料	日	0.16	大型ブレーカ
計			

備考：01-03-130 大型ブレーカ掘削 (山地治山工) に適用する。

02-01-450 大型ブレーカ運転

1300kg級 軟岩 I (B)・軟岩 II (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	16.00 15.00	104kW× 0.153 0.144
運転手 (特殊)	人	0.16	1/6.3h
機械損料(+0.10)	時 間	1.00	バックホウ0.80m ³ (0.60m ³) 超低騒音型 排出ガス対策型 (第3次基準値)
機 械 損 料	日	0.16	大型ブレーカ
計			

備考：01-03-130 大型ブレーカ掘削 (山地治山工)、01-03-220 大型ブレーカ掘削 (一般) に適用する。

02-01-460 大型ブレーカ運転

1300kg級 中硬岩・硬岩 (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	16.00 15.00	104kW× 0.153 0.144
運転手 (特殊)	人	0.16	1/6.3h
機械損料(+0.25)	時 間	1.00	バックホウ0.45m ³ (0.35m ³) 超低騒音型 排出ガス対策型 (第3次基準値)
機 械 損 料	日	0.16	大型ブレーカ
計			

備考：01-03-130 大型ブレーカ掘削 (山地治山工)、01-03-220 大型ブレーカ掘削 (一般) に適用する。

02-01-490 ササカッター運転

10PS (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
ガソリン	ℓ	8.00	
特殊作業員	人	1.00	
機械損料	日	1.00	
計			5.4h/日運転

備考：01-02-100 ササカッター処理に適用する。

02-01-500 ウッドチップパー運転

30PS (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽油	ℓ	22.0 23.0	
特殊作業員	人	1.00	
機械損料	日	1.00	
計			5.4h/日運転

備考：01-02-110 ウッドチップパー処理に適用する。

02-01-550 超ロングアームバックホウ運転

クローラ型 0.40m3(0.30m3) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽油	ℓ	91	指定事項
運転手(特殊)	人	1.00	指定事項
機械損料	供用日	1.47	指定事項 排出ガス対策型(第1次基準値)
計			

備考：01-01-320 機械土工(超ロングアームバックホウ土工)に適用する。

02-01-600 特殊掘削機運転

クローラ型 0.16m3(0.14m3) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽油	ℓ	52	指定事項
運転手(特殊)	人	1.00	指定事項
機械損料	日	1.00	指定事項
計			6.0h/日運転

備考：01-01-420 機械土工(特殊掘削機土工)に適用する。

02-03 運搬工機械運転

02-03-010・020・030 ダンプトラック運転

2 t 車 (火山灰・土砂・軟岩・AS塊・CO塊) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	3.88 3.50	88kW× 0.043 0.040
運転手 (一般)	人	0.17	1/5.9h
機 械 損 料	時 間	1.00	
損 耗 費	時 間	1.00	良好、普通、又は不良
計			

02-03-070・080・090 ダンプトラック運転

2 t 車 (中硬岩・硬岩) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	3.88 3.50	88kW× 0.043 0.040
運転手 (一般)	人	0.17	1/5.9h
機 械 損 料 (+0.25)	時 間	1.00	
損 耗 費	時 間	1.00	良好、普通、又は不良
計			

02-03-100・110・120 ダンプトラック運転

4 t 車 (火山灰・土砂・軟岩・AS塊・CO塊) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	5.88 5.40	135kW× 0.043 0.040
運転手 (一般)	人	0.17	1/5.9h
機 械 損 料	時 間	1.00	
損 耗 費	時 間	1.00	良好、普通、又は不良
計			

02-03-160・170・180 ダンプトラック運転

4 t 車 (中硬岩・硬岩) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	5.88 5.40	135kW× 0.043 0.040
運転手 (一般)	人	0.17	1/5.9h
機 械 損 料 (+0.25)	時 間	1.00	
損 耗 費	時 間	1.00	良好、普通、又は不良
計			

02-03-190・200・210 ダンプトラック運転

10 t 車 (火山灰・土砂・軟岩・AS塊・CO塊) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	11.00 9.80	246kW× 0.043 0.040
運転手 (一般)	人	0.17	1/5.9h
機 械 損 料	時 間	1.00	
損 耗 費	時 間	1.00	良好、普通、又は不良
計			

02-03-250・260・270 ダンプトラック運転

10 t 車 (中硬岩・硬岩) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	11.00 9.80	246kW× 0.043 0.040
運転手 (一般)	人	0.17	1/5.9h
機械損料 (+0.25)	時 間	1.00	
損 耗 費	時 間	1.00	良好、普通、又は不良
計			

02-03-280 不整地運搬車運転

4～5 t 積・クローラ型油圧ダンプ式 (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	13.00 11.00	98kW× 0.13 0.114
運転手 (特殊)	人	0.14	1/6.9
機 械 賃 料	時 間 日	1.00 0.32	排出ガス対策型 (第1次基準値) 2.18/6.9
計			6.9h/日運転

02-03-340・350・351 モノレール運転

(日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	9.00	6.0h/日
普通作業員	人	2.00	
計			積卸含む。
計			積卸含まず。

(複単は、運搬工に移動)

02-03-390 荷揚機運転

運搬延長=50m (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
普通作業員	人	2.00	
機 械 損 料	日	1.00	本体 6.0h/日運転
機 械 損 料	日	1.00	レール
計			積卸含む。
計			積卸含まず。

(複単は、運搬工に移動)

02-03-400 ケーブルクレーン運転

「架設・撤去用」 (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	22.00	48kw×0.108×4.3h
特殊作業員	人	1.00	
機 械 賃 料	日	1.00	ウインチ (別途計上)
計			4.3h/日運転

02-03-410 ケーブルクレーン運転

「コンクリート用」 (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	28.00	48kw×0.108×5.3h
特殊作業員	人	1.00	
機 械 賃 料	日	1.00	ウインチ (別途計上)
計			5.3h/日運転

02-03-420 ケーブルクレーン運転

「諸資材・土工機械の分解組立用」 (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	35.00	48kw×0.108×6.7h
特 殊 作 業 員	人	1.00	
機 械 賃 料	日	1.00	ウインチ (別途計上)
計			6.7h/日運転

02-03-430 不整地運搬車運転

6～7 t積・クローラ型油圧ダンプ式 (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	16 13.00	116kW× 0.134 0.114
運 転 手 (特 殊)	人	0.14	1/6.9
機 械 賃 料	時 間 且	1.00 0.32	排出ガス対策型 (第2次基準値) <u>2.18/6.9</u>
計			6.9h/日運転

02-03-440 不整地運搬車運転

10～11 t積・クローラ型油圧ダンプ式 (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	25 22.00	190kW× 0.134 0.114
運 転 手 (特 殊)	人	0.14	1/6.9
機 械 賃 料	時 間 且	1.00 0.32	排出ガス対策型 (第2次基準値) <u>2.18/6.9</u>
計			6.9h/日運転

02-03-441 小型不整地運搬車運転

2 t積・クローラ型油圧ダンプ式 (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	3.10 2.60	23kW×0.114
運 転 手 (特 殊)	人	0.14	1/6.9
機 械 賃 料	時 間 且	1.00 0.32	排出ガス対策型 (第1次基準値) <u>2.18/6.9</u>
計			6.9h/日運転

02-03-450 バックホウ運転

0.28m³ (0.20m³) 「ケーブルクレーンアンカー架設・撤去用」 (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	6.30 5.90	41kW× 0.150 0.144
運 転 手 (特 殊)	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

02-04 コンクリート工機械運転

02-04-010 コンクリートポンプ車運転

ブーム式 90~110m³/h (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	16.00 13.00	199kW× 0.078 0.066
運 転 手 (特殊)	人	0.14	1/6.9 h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

02-04-030 ケーブルクレーン運転

(日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	35.00	48kW×0.108×6.7h
特 殊 作 業 員	人	1.00	
機 械 賃 料	日	1.00	ウインチ (別途計上)
計			6.7h/日運転

備考：04-09-700 治山ダム型枠の設置に適用する。

02-06 作工物機械運転

02-06-010 バックホウ運転

油圧クローラ型0.80m3(0.60m3) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	41.00	指定事項
運 転 手 (特 殊)	人	0.58	指定事項
機 械 賃 料	供用日	0.79	指定事項 排出ガス対策型 (第2次基準値)
計			

備考：06-01-100・150 基礎砕石工、06-01-300 基礎栗石工 (敷き並べ) に適用する。

02-06-020 バックホウ運転

油圧クローラ型0.80m3(0.60m3) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	65.00	指定事項
運 転 手 (特 殊)	人	0.90	指定事項
機 械 賃 料	供用日	1.00	指定事項 排出ガス対策型 (第2次基準値)
計			

備考：06-01-200 裏込砕石工、06-01-400 裏込栗石工 (かき込み) に適用する。

02-06-030 バックホウ運転

油圧クローラ型0.80m3(0.60m3) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	72.00	指定事項
運 転 手 (特 殊)	人	1.00	指定事項
機 械 賃 料	供用日	1.00	指定事項 排出ガス対策型 (第2次基準値)
計			

備考：06-01-300 基礎栗石工 (敷き均し) に適用する。

02-06-040 バックホウ運転

油圧クローラ型0.80m3(0.60m3) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	16.00 15.00	104kW× 0.153 0.144
運 転 手 (特 殊)	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	排出ガス対策型 (第2次基準値)
計			

備考：06-09 鋼製自在杵工、06-14-300 丸太杵工(2)木製ブロック積工、06-17 簡易鋼製土留工に適用する。

02-06-045 バックホウ運転

油圧クローラ型0.80m3(0.60m3) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	16.00 15.00	104kW× 0.153 0.144
運 転 手 (特 殊)	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	排出ガス対策型 (第1次基準値)
計			

備考：06-06 鉄線籠工に適用する。

02-06-046 バックホウ運転

油圧クローラ型0.50m3(0.45m3) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	9.80 9.20	64kW× 0.153 0.144
運 転 手 (特 殊)	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	排出ガス対策型 (第1次基準値)
計			

備考：06-06 鉄線籠工に適用する。

02-06-050 バックホウ運転

油圧クローラ型0.45m³(0.35m³) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	9.288.60 <u>15.00</u>	60kW× 0.153 <u>0.144</u>
運転手(特殊)	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	排出ガス対策型(第1次基準値)
計			

備考: 06-06 鉄線管工、06-09 鋼製自在杵工、06-17 簡易鋼製土留工に適用する。

02-06-060 バックホウ運転

油圧クローラ型0.8m³(0.60m³) クレーン機能付き2.9t吊り (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	16.00 <u>15.00</u>	104kW× 0.153 <u>0.144</u>
運転手(特殊)	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	排出ガス対策型(第1次基準値)
計			

備考: 06-09 鋼製自在杵工に適用する。

02-06-070 タンパ運転

60~80kg級 (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
ガ ソ リ ン	ℓ	5.00 <u>6.00</u>	1.000 (=3.0kW× 0.346 <u>0.398</u>) ×5.0h
特 殊 作 業 員	人	1.00	
機 械 損 料	日	1.00	
計			

備考: 06-17 簡易鋼製土留工、06-14-300 丸太杵工(2)木製ブロック積工に適用する。

02-06-100 クレーン付トラック運転

4t積 2.9t吊 (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	5.705.30 <u>5.30</u>	132kW× 0.043 <u>0.040</u>
運転手(特殊)	人	0.17	1/5.8h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考: 06-23 ガードケーブル設置工に適用する。

02-06-120 支柱打込機運転

モンケン式400~600kg (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	6.50	(98+29)kW×0.051
運転手(一般)	人	0.16	1/6.1h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考: 06-23 ガードケーブル設置工に適用する。

02-06-160 小型バックホウ運転

油圧クローラ型0.08m³(0.06m³) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	5.80 4.70	2.80 (=18kW× 0.153 0.144) ×1.8 h
特 殊 作 業 員	人	1.00	
機 械 損 料	日	1.00	
計			

備考：06-22-600 木製案内板等設置に適用する。

02-06-161 小型バックホウ運転

油圧クローラ型0.08m³(0.06m³) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	4.80 4.40	2.80 (=18kW× 0.153 0.144) ×1.7 h
特 殊 作 業 員	人	1.00	
機 械 損 料	日	1.00	
計			

備考：06-22-610 木製標識板等設置に適用する。

02-06-170 ボーリングマシン運転

ロータリーパーカッション式 クローラタイプ81KW (エンジン式) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	74.00	(81kW×0.151) ×6.2h
機 械 損 料	日	1.00	
計			6.2h/日運転

備考：06-33-050 削孔工（高エネルギー吸収柵工）に適用する。

02-07 管渠工機械運転

02-07-020 バックホウ（クレーン機能付）運転

油圧クローラ型0.45m³(0.35m³) 2.9 t吊クレーン機能付 (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	9.288.60	60kW× 0.1530.144
運転手（特殊）	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：07-01-300 鉄筋コンクリート台付管設置、07-03-400 L型側溝布設、07-05-100 集水桝設置に適用する。

02-07-021 バックホウ（クレーン機能付）運転

油圧クローラ型0.28m³(0.2m³) 1.7 t吊クレーン機能付 (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	40.00	指定事項
運転手（特殊）	人	1.00	指定事項
機 械 賃 料	日	1.64	指定事項
計			

備考：07-01-600 梯子土台設置に適用する。

02-07-040 バックホウ（クレーン機能付）運転

油圧クローラ型0.28m³(0.20m³) 1.7 t吊クレーン機能付 (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	6.305.90	41kW× 0.1530.144
運転手（特殊）	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	排出ガス対策型（第2次基準値）
計			

備考：07-09-100 山腹水路工（集水桝）に適用する。

02-07-045 バックホウ（クレーン機能付）運転

油圧クローラ型0.28m³(0.20m³) 1.7 t吊クレーン機能付 (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	39.00	指定事項
運転手（特殊）	人	1.00	指定事項
機 械 損 料	供用日	1.56	指定事項 排出ガス対策型（第2次基準値）
計			

備考：07-09-100 山腹水路工（集排水路、明暗渠、暗渠）に適用する。

02-07-050 不整地運搬車運転

2.5 t積・クローラ型油圧ダンプ式 (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	10.00	指定事項
運転手（特殊）	人	1.00	指定事項
機 械 賃 料	供用日	1.66	指定事項 排出ガス対策型（第2次基準値）
計			

02-09 橋梁工機械運転

02-09-030 コンクリートポンプ車運転

ブーム式90~110m³/h (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	16.66 13.00	199kw× 0.078 0.066
運 転 手 (特 殊)	人	0.14	1/6.9
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：09-05-520 PC桁架設工に適用する。

02-10 法面工機械運転

02-10-010 発動発電機運転

10(13)KVA (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	13.00 11.00	2.00 (=14kw× 0.145 0.123) × 6.4h
機 械 賃 料	日	1.00	
計			6.4h/日運転

備考：10-06-360 植生用マット張工に適用する。

02-10-020 モルタルコンクリート吹付機運転

湿式・モータ駆動0.8~1.2m³/h (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：10-11-300 特殊配合モルタル吹付工、10-12-400 簡易吹付法枠工に適用する。

02-10-030 空気圧縮機運転

可搬式スクルーエンジン掛10.5~11m³/min (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	81	指定事項
機 械 賃 料	日	1.71	指定事項 排出ガス対策型 (第2次基準値)
計			

備考：10-12-400 簡易吹付法枠工 (枠内吹付) に適用する。

02-10-040 発動発電機運転

45KVA (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	36	指定事項
機 械 賃 料	日	1.71	指定事項 排出ガス対策型 (第3次基準値)
計			

備考：10-12-400 簡易吹付法枠工 (ラス張工、枠内吹付) に適用する。

02-10-050 ホイールローダ運転

普通・山積0.34m³ (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	15.00	指定事項
運 転 手 (一 般)	人	1.00	指定事項
機 械 賃 料	日	1.55	指定事項 排出ガス対策型 (第3次基準値)
計			

備考：10-12-400 簡易吹付法枠工に適用する。

02-10-120 発動発電機運転

25KVA (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	24.00 21.00	(23kw× 0.145 0.123) × 7.4h
機 械 賃 料	日	1.00	
計			7.4h/日運転

備考：10-10-560 植物発生材吹付工に適用する。

02-10-140 モルタルコンクリート吹付機運転

湿式・駆動0.8~1.2m³/h (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	25.00	(18kw×0.191) × 7.4h
機 械 損 料	供用日	1.00	
計			7.4h/日運転

備考：10-10-560植生発生材吹付工に適用する。

02-10-160 バックホウ運転

0.80m³ (0.60m³) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	16.00 15.00	104kw× 0.153 0.144
運 転 手 (特 殊)	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：10-12-100 プレキャストコンクリート法枠工、10-07-100 特殊箆張工、10-10-800 すき取り土法覆基材工に適用する。

02-10-170 空気圧縮機運転

可搬式スクリーエンジン掛18.0~19.0m³/min (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	190.00 160.00	(140kw× 0.187 0.159) × 7.4h
機 械 賃 料	日	1.00	
計			

備考：10-10-560植生発生材吹付工に適用する。

02-10-180 空気圧縮機運転

可搬式スクリーエンジン掛7.5~7.8m³/min (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	78	指定事項
機 械 賃 料	供用日	1.75	指定事項
計			

備考：10-13-110削孔に適用する。

02-12 路盤工機械運転

02-12-010 振動ローラ運転

搭乗式・ダンデム型2.5～2.8 t (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	3.00 3.50	19kw× 0.160 0.184
特 殊 作 業 員	人	0.22	1/4.6h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：12-01-100 非舗装前提の路盤工、12-02-200 凍上抑制層（砂・火山灰）に適用する。

02-12-020 タンパ運転

60～80kg (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
ガ ソ リ ン	ℓ	5.00 6.00	(3.0kw× 0.346 0.398)×5.0h
特 殊 作 業 員	人	1.00	
機 械 損 料	日	1.00	
計			5.0h/日運転

備考：12-01-100 非舗装前提の路盤工、12-02-200 凍上抑制層（砂・火山灰）に適用する。

02-12-030 タイヤローラ運転

8～20 t (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	6.00 7.00	71kw× 0.085 0.098
運 転 手 (特 殊)	人	0.20	1/5.1h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：12-01-100 非舗装前提の路盤工、12-02-200 凍上抑制層（砂・火山灰）に適用する。

02-12-110 ブルドーザ運転

3 t (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	4.40 4.20	29kw× 0.153 0.144
運 転 手 (特 殊)	人	0.19	1/5.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：12-01-100 非舗装前提の路盤工、12-02-200 凍上抑制層（砂・火山灰）に適用する。

02-12-120 ブルドーザ運転

15 t (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	15.00 14.00	100kw× 0.153 0.144
運 転 手 (特 殊)	人	0.19	1/5.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：12-01-100 非舗装前提の路盤工、12-02-200 凍上抑制層（砂・火山灰）に適用する。

02-12-140 バックホウ運転

0.80m3 (0.60m3) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	16.00 15.00	104kw× 0.150 0.144
運転手(特殊)	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：12-01-100 非舗装前提の路盤工、12-02-200 凍上抑制層(砂・火山灰)に適用する。

02-12-151 バックホウ運転

クローラ型 0.28m3(0.20m3) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	6.80 5.90	41kw× 0.150 0.144
運転手(特殊)	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	排出ガス対策型(第2次基準値)
計			

備考：12-03-410 砂利路盤工に適用する。

02-12-152 小型バックホウ運転

クローラ型 0.13m3(0.10m3) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	22.00 21.00	(25kw× 0.150 0.144)×5.7h
運転手(特殊)	人	1.00	
機 械 損 料	日	1.00	排出ガス対策型(第2次基準値)
計			

備考：12-03-410 砂利路盤工に適用する。

02-12-153 振動ローラ運転

搭乗式コンバインド型3~4t (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	13.00	指定事項
運転手(特殊)	人	1.00	指定事項
機 械 賃 料	供用日	1.26	指定事項 排出ガス対策型(第1次基準値)
計			

備考：12-03-410 砂利路盤工に適用する。

02-12-154 振動ローラ運転

ハンドガイド式 0.5~0.6t (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	3.0	指定事項
特殊作業員	人	1.00	指定事項
機 械 損 料	供用日	1.74	指定事項
計			

備考：12-03-410 砂利路盤工に適用する。

02-12-160 モータグレーダ運転

ブレード幅3.1m (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	9.20 9.50	85kw× 0.100 0.112
運転手(特殊)	人	0.20	1/5.1h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：12-08 瀝青路面安定処理工に適用する。

02-12-170 ロードローラ運転

マカダム両輪駆動10~12 t (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	6.60 7.20	56kw× 0.118 0.128
運転手 (特殊)	人	0.20	1/5.1h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：12-08 瀝青路面安定処理工に適用する。

02-12-180 スタビライザー運転

幅1.7m級 (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	9.80 10.00	88kw× 0.111 0.115
運転手 (特殊)	人	0.20	1/5.0h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：12-08 瀝青路面安定処理工に適用する。

02-12-190 散水車運転

タンク容量5500~6500ℓ (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	5.80 4.90	132kw× 0.044 0.037
運転手 (一般)	人	0.18	1/5.5h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：12-08 瀝青路面安定処理工に適用する。

02-12-200 チップスプレッダ付ダンプトラック運転

10 t ダンプ (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	11.00 9.80	246kw× 0.043 0.040
運転手 (一般)	人	0.17	1/5.9h
機 械 損 料	時 間	1.00	10 t ダンプ
タイヤ損耗	時 間	1.00	普通
機 械 損 料	日	0.17	チップスプレッダ (テールゲート式)
計			

備考：12-08 瀝青路面安定処理工に適用する。

02-12-210 ディストリビュータ運転

自走式2000~3000ℓ (日・時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	3.10	(8.0kw×0.090) ×4.3h
運転手 (一般)	人	1.00	
機 械 損 料	日	1.00	
トラック損料	h	4.30	普通型6~6.5 t 積
日 当 たり 計			
時 間 当 たり 計			4.3h/日運転

備考：12-08 瀝青路面安定処理工に適用する。

02-15 共通仮設費機械運転

02-15-010 バックホウ運転

0.45m3 (0.35m3) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	9.28 8.60	60kw× 0.153 0.144
運 転 手 (特 殊)	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：15-20-300 機械除根に適用する。

02-15-020 バックホウ運転

0.80m3 (0.60m3) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	16.00 15.00	104kw× 0.153 0.144
運 転 手 (特 殊)	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：15-01-100 土のう締切工、15-08 大型土のう設置工、15-20-300 機械除根に適用する。

02-15-040 発動発電機運転

ディーゼルエンジン駆動 25KVA 作業時排水 (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	26.00	指定事項
特 殊 作 業 員	人	0.14	指定事項
機 械 賃 料	供用日	1.20	指定事項 第2次基準値
計			

備考：15-03 水替費に適用する。

02-15-045 発動発電機運転

ディーゼルエンジン駆動 35KVA 作業時排水 (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	38.00	指定事項
特 殊 作 業 員	人	0.14	指定事項
機 械 賃 料	供用日	1.20	指定事項 第2次基準値
計			

備考：15-03 水替費に適用する。

02-15-070 発動発電機運転

ディーゼルエンジン駆動 60KVA 作業時排水 (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	66.00	指定事項
特 殊 作 業 員	人	0.14	指定事項
機 械 賃 料	供用日	1.20	指定事項 第2次基準値
計			

備考：15-03 水替費に適用する。

02-15-181 発動発電機運転

ディーゼルエンジン駆動 5 KVA 作業時排水 (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	7.90	指定事項
特 殊 作 業 員	人	0.14	指定事項
機 械 賃 料	供用日	1.10	指定事項
計			

備考：15-03-600 水替費（小口径）に適用する。

02-15-182 発動発電機運転

ガソリンエンジン駆動 2 KVA 常時排水 (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
ガ ソ リ ン	ℓ	28.00	指定事項
特 殊 作 業 員	人	0.17	指定事項
機 械 賃 料	供用日	1.10	指定事項
計			

備考：15-03-600 水替費（小口径）に適用する。

02-15-183 発動発電機運転

ディーゼルエンジン駆動 5 KVA 常時排水 (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	24.00	指定事項
特 殊 作 業 員	人	0.17	指定事項
機 械 賃 料	供用日	1.10	指定事項
計			

備考：15-03-600 水替費（小口径）に適用する。

02-15-190 ブルドーザ運転

15 t (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	15.00 14.00	100kw× 0.153 0.144
運 転 手 (特 殊)	人	0.19	1/5.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：15-05 仮設道に適用する。

02-15-195 バックホウ運転

0.80m3 (0.60m3) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	16.00 15.00	104kw× 0.153 0.144
運 転 手 (特 殊)	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：15-05 仮設道、15-20-700 伐開物集積積込作業（機械）に適用する。

02-15-196 ブルドーザ運転

11 t (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	12.00 11.00	78kw× 0.153 0.144
運転手 (特殊)	人	0.19	1/5.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：15-05 仮設道、15-20-300 機械除根に適用する。

02-15-200 クレーン付トラック運転

4 t 積 2.9 t 吊 (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	6.70 5.30	132kw× 0.043 0.040
運転手 (特殊)	人	0.17	1/5.8h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：15-07-500 仮設落石防護柵設置撤去に適用する。

02-15-210 草刈り機運転

肩掛式 1.3 kW (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
混 合 油	ℓ	1.50 1.30	(1.3kw× 0.588 0.500) × 2.0h
機 械 損 料	日	1.00	
計			2.0h/日運転

備考：15-20-100 人力伐開に適用する。

02-15-230 ブルドーザ運転

15 t (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	15.00 14.00	100kw× 0.153 0.144
運転手 (特殊)	人	0.19	1/5.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：15-20-300 機械除根に適用する。

02-15-240 ブルドーザ運転

21 t (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	23.00 22.00	152kw× 0.153 0.144
運転手 (特殊)	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：15-20-300 機械除根に適用する。

02-15-250 潜水ポンプ運転

作業時排水 (揚程15m以下) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
機 械 賃 料	供用日	1.20	指定事項 (口径150mm)
機 械 賃 料	供用日	1.20	指定事項 (口径200mm)
計			

備考：15-03 水替費に適用する。

02-15-270 潜水ポンプ運転

常時排水（揚程15m以下）（日）

種 別	単 位	数 量	摘 要
機 械 賃 料	供用日	1.10	指定事項（口径150mm）
機 械 賃 料	供用日	1.10	指定事項（口径200mm）
計			

備考：15-03 水替費に適用する。

02-15-290 ダンプトラック運転

10 t 車（時間）

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	11.00 2.80	246kw× 0.043 0.040
運転手（一般）	人	0.17	1/5.9h
機 械 損 料	時 間	1.00	
タイヤ損耗費	時 間	1.00	良好
計			

備考：15-20-800 伐開物運搬に適用する。

02-15-300 バックホウ運転

0.80m3（0.60m3）（掴み装置付）（時間）

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	16.00 15.00	104kw× 0.150 0.144
運転手（特殊）	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	バックホウ
機 械 損 料	時 間	1.00	掴み装置
計			

備考：15-20-700 伐開物集積積込作業（機械）に適用する。

02-15-400 バックホウ（クレーン仕様）運転

0.80m3（0.60m3）クレーン機能付き2.9 t 吊（日）

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	98.00	指定事項
運転手（特殊）	人	1.00	指定事項
機 械 賃 料	供用日	1.39	指定事項
計			

備考：15-08 大型土のう設置工のうち製作・据付一連作業（バックホウによる据付）に適用する。

02-15-410 バックホウ（クレーン仕様）運転

0.80m3（0.60m3）クレーン機能付き2.9 t 吊（日）

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	112.00	指定事項
運転手（特殊）	人	1.00	指定事項
機 械 賃 料	供用日	1.44	指定事項
計			

備考：15-08 大型土のう設置工のうち製作・据付一連作業（ラフレンクレーンによる据付）に適用する。

02-16-066 大口径ボーリングマシン運転

30KW (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
機 械 損 料	供用日	1.33	指定事項
計			

備考：16-03 大口径ボーリング工に適用する。

02-16-068 ウインチ運転

単胴開放式型(電動)・単胴・巻上能力2.8t×30m/分・巻取容量φ22×200m (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
機 械 損 料	日	1.41	指定事項
計			

備考：16-03-400 やぐらの設置・撤去に適用する。

02-16-070 発動発電機運転

75KVA (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	43.00	指定事項
機 械 賃 料	日	1.30	指定事項
計			

備考：16-03-400 やぐらの設置・撤去に適用する。

02-16-080 発動発電機運転

100KVA (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	73.00	指定事項
機 械 賃 料	日	1.30	指定事項
計			

備考：16-03-400 やぐらの設置・撤去に適用する。

02-16-140 クラムシェル運転

テレスコピック式 クローラ型平積0.4m3 (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	48.00	指定事項
運 転 手 (特 殊)	人	1.00	指定事項
機 械 賃 料	供用日	1.41	指定事項
計			

備考：16-05 集水井工に適用する。

02-16-150 小型バックホウ運転

電動式クローラ型0.022m3 (0.015m3) (B工法) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
機 械 損 料	供用日	1.47	指定事項
計			

備考：16-05 集水井工に適用する。

02-16-160 小型バックホウ運転

電動式クローラ型0.022m³ (0.015m³) (C工法) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
機 械 損 料	供用日	1.40	指定事項
計			

備考：16-05 集水井工に適用する。

02-16-200 簡易やぐら装置運転

鋼管製φ60.5×4.0m 2.0t吊 7.9KW モータウインチ付 (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
機 械 損 料	供用日	1.43	指定事項
計			

備考：16-05 集水井工に適用する。

02-16-210 クレーン付トラック運転

クレーン装置付2t積 2.9t吊 (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	23.00	指定事項
運 転 手 (特 殊)	人	1.00	指定事項
機 械 損 料	供用日	1.20	指定事項
計			

備考：16-05 集水井工に適用する。

02-16-230 発動発電機運転

定格容量75KVA (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	60	指定事項
機 械 賃 料	供用日	1.18	指定事項 排出ガス対策型 (第1次基準値)
計			

備考：16-07 場所打杭工 (ダウンザホールハンマ工) に適用する。

02-16-240 ウインチ運転

単胴開放式型 (電動)・単胴・巻上能力2.8t×30m/分・巻取容量φ22×200m (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
機 械 損 料	供用日	1.55	指定事項
計			

備考：16-07 場所打杭工 (ダウンザホールハンマ工) に適用する。

02-16-250 ラフテレーンクレーン運転

油圧伸縮ジブ型25t吊 (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	102	指定事項
運 転 手 (特 殊)	人	1.00	指定事項
機 械 損 料	供用日	1.02	指定事項 排出ガス対策型 (第2次基準値)
計			

備考：16-07 場所打杭工 (ダウンザホールハンマ工) の鋼管杭・H形鋼杭建込用掘削機組立・解体分解に適用する。

02-17 保安林整備機械運転

02-17-010 草刈機運転

肩掛式 1.3kW (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
混 合 油	ℓ	6.185.20	(1.3kw× 0.5880.500) × 8.0h
特 殊 作 業 員	人		別途計上
機 械 損 料	日	1.00	
計			8.0h/日運転

備考：17-01-010 筋刈地拵、17-01-020 全刈地拵、17-09-100 下刈に適用する。

02-17-020 レーキドーザ運転

11 t (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	13.00	76kw×0.175
運 転 手 (特 殊)	人	0.17	1/5.9h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計 (時間当たり)	時 間		
計 (分当たり)	分		

備考：17-01-030 レーキドーザ地拵、17-01-200 土坊主整地、17-01-220 倒木整理、17-01-230 稚樹及び根曲竹除去に適用する。

02-17-090 ブルドーザ運転

湿地10 t (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	11.0010.00	71kw× 0.1530.144
運 転 手 (特 殊)	人	0.19	1/5.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：17-01-210 谷地坊主除去に適用する。

02-17-100 レーキドーザ運転

湿地13 t (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	16.00	93kw×0.175
運 転 手 (特 殊)	人	0.14	1/7.1h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：17-01-230 稚樹及び根曲竹除去に適用する。

02-17-110 バックホウ運転

油圧クローラ型0.45m3 (0.35m3) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	9.208.60	60kw× 0.1530.144
運 転 手 (特 殊)	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：17-02-100 フィルター材敷設に適用する。

02-17-120 バックホウ運転

油圧クローラ型0.80m³ (0.60m³) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	16.00 15.00	104kw× 0.150 0.144
運転手(特殊)	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：17-02-100 フィルター材敷設に適用する。

02-17-130 クレーン付トラック運転

4 t 積 2.9 t 吊 (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	5.70 5.30	132kw× 0.040 0.040
運転手(特殊)	人	0.17	1/5.8h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：17-04-300 防風工(三角枠)に適用する。

02-17-190 チェンソー運転

鋸長500mm (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
混 合 油	ℓ	3.20	0.450ℓ/h×7h
機 械 損 料	日	1.00	
計			

備考：17-09-400 除伐、17-09-510 受光・本数調整伐に適用する。

02-17-200 アスウッドマシン運転

(日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	45.00 43.00	指定事項
運転手(特殊)	人	1.00	指定事項
機 械 損 料	日	1.00	指定事項
計			

備考：17-11-120 木材チップ舗装に適用する。

02-17-210 ホイールローダ運転

1.3~1.4m³ (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	45.00 43.00	(63kw× 0.150 0.144)×4.7h
運転手(特殊)	人	1.00	
機 械 損 料	日	1.00	
計			

備考：17-11-120 木材チップ舗装に適用する。

02-17-220 ホイールローダ運転

0.34~0.35m³ (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	15.00 14.00	(21kw× 0.150 0.144)×4.7h
運転手(特殊)	人	1.00	
機 械 損 料	日	1.00	
計			

備考：17-11-120 木材チップ舗装に適用する。

02-17-230 ブルドーザ運転

3 t 土砂・軟岩 I (A) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	4.40 <u>4.20</u>	29kw× 0.153 <u>0.144</u>
運転手 (特殊)	人	0.19	1/5.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：17-11-250 木材チップ機械敷均しに適用する。

02-17-240 ブルドーザ運転

11 t 土砂・軟岩 I (A) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	12.00 <u>11.00</u>	78kw× 0.153 <u>0.144</u>
運転手 (特殊)	人	0.19	1/5.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：17-11-250 木材チップ機械敷均しに適用する。

02-17-250 ブルドーザ運転

15 t 土砂・軟岩 I (A) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	15.00 <u>14.00</u>	100kw× 0.153 <u>0.144</u>
運転手 (特殊)	人	0.19	1/5.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：17-11-250 木材チップ機械敷均しに適用する。

02-17-260 ブルドーザ運転

21 t 土砂・軟岩 I (A) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	23.00 <u>22.00</u>	152kw× 0.153 <u>0.144</u>
運転手 (特殊)	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：17-11-250 木材チップ機械敷均しに適用する。

02-18 冬期施工機械運転

02-18-010 ホイールローダ運転

1.3~1.4m³ (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	15.00 13.00	(63kw× 0.153 0.144) × 4.7h
運転手 (特殊)	人	1.00	
機 械 賃 料	日	1.55	
計			

備考：18-02-300 工事区域内除雪、18-02-500 工所用道路除雪に適用する。

02-18-020 バックホウ運転

油圧クローラ型0.80m³ (0.60m³) (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	16.00 15.00	104kw× 0.153 0.144
運転手 (特殊)	人	0.16	1/6.3h
機 械 損 料	時 間	1.00	
計			

備考：18-02-400 工事区域内除雪 (作工物周辺、法面部)、18-09-100 割氷工に適用する。

02-18-030 バックホウ運転

油圧クローラ型0.80m³ (0.60m³) 2.9t吊クレーン機能付き (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	18.00	指定事項
運転手 (特殊)	人	0.25	指定事項
機 械 賃 料	日	1.02	指定事項 排出ガス対策型 (2011年規制)
計			

備考：18-03-210 Pタイプの設置・撤去歩掛に適用する。

02-18-050 ジェットヒーター運転

126MJ/h(30,100kcal/h) (小型構造物) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
灯 油	ℓ	72.36	指定事項
機 械 賃 料	日	1.20	指定事項
計			

備考：18-05 小型構造物防寒工に適用する。

02-18-060 ジェットヒーター運転

126MJ/h(30,100kcal/h) (無筋構造物) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
灯 油	ℓ	66.60	指定事項
機 械 賃 料	日	1.20	指定事項
計			

備考：18-04 防寒養生費に適用する。

02-18-061 ジェットヒーター運転

126MJ/h(30,100kcal/h) (鉄筋構造物) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
灯 油	ℓ	54.72	指定事項
機 械 賃 料	日	1.20	指定事項
計			

備考：18-04 防寒養生費に適用する。

02-18-062 ジェットヒーター運転

126MJ/h(30,100kcal/h) (ブロック積) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
灯 油	ℓ	72.36	指定事項
機 械 賃 料	日	1.20	指定事項
計			

備考：18-04 防寒養生費に適用する。

02-18-070 発動発電機運転

ディーゼルエンジン駆動2.7/3KVA (無筋構造物) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	10.73 9.10	(4kw× 0.145 0.123) × 18.5
機 械 損 料	日	1.20	指定事項
計			

備考：18-04 防寒養生費に適用する。

02-18-071 発動発電機運転

ディーゼルエンジン駆動2.7/3KVA (鉄筋構造物) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	8.82 7.48	(4kw× 0.145 0.123) × 15.2
機 械 損 料	日	1.20	指定事項
計			

備考：18-04 防寒養生費に適用する。

02-18-072 発動発電機運転

ディーゼルエンジン駆動2.7/3KVA (ブロック積) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	11.66 9.89	(4kw× 0.145 0.123) × 20.1
機 械 損 料	日	1.20	指定事項
計			

備考：18-04 防寒養生費に適用する。

03-03 人力運搬

03-03-100 人肩運搬 (SPB201)

1 仮置きされた諸資材等の標準歩掛

1) 適用範囲

本歩掛は仮置きされた土砂及び諸資材等を積込み～人肩運搬～人力取卸しの一連作業に適用する。

2) 施工歩掛

表2.1 人肩運搬 (1)

種別 距離	砂 砂質土 粘性土	礫質土 砂利 砕石 栗石	岩塊 玉石 砕石	セメント 鋼材 二次製 品等	積ブロック (控35cm) 連結 ブロック	平張 ブロック	野面石・雑割石・積石				
							控 25cm	控 30cm	控 35cm	控 40cm	控 45cm
m	人/m3	人/m3	人/m3	人/t	人/m2	人/m2	人/m2	人/m2	人/m2	人/m2	人/m2
20	0.21	0.26	0.31	0.11	0.07	0.03	0.06	0.07	0.08	0.10	0.11
40	0.26	0.33	0.38	0.14	0.09	0.05	0.08	0.10	0.11	0.12	0.13
60	0.32	0.38	0.44	0.17	0.11	0.06	0.10	0.12	0.13	0.14	
80	0.37	0.45	0.52	0.21	0.13	0.07	0.12	0.14	0.15	0.16	
100	0.43	0.50	0.59	0.24	0.15	0.07	0.14	0.15	0.17	0.20	
120	0.49	0.57	0.66	0.27	0.18	0.08	0.15	0.17	0.20	0.22	
140	0.54	0.63	0.72	0.31	0.19	0.10	0.17	0.20	0.22	0.24	
160	0.60	0.69	0.80	0.34	0.21	0.11	0.20	0.22	0.24	0.26	
180	0.65	0.75	0.87	0.37	0.23	0.12	0.21	0.24	0.26	0.28	
200	0.71	0.81	0.93	0.41	0.25	0.13	0.23	0.25	0.28	0.30	
定距離 (C) 100m 当たり	(A) 0.156	0.203	0.250	0.077	0.055	0.022	0.047	0.066	0.077	0.083	
	(B) 0.275	0.302	0.340	0.165	0.095	0.054	0.089	0.094	0.099	0.112	

備考1 本表は原則として使用せず、他の経済的な運搬方法を考慮する。

2 本表は原則として200m以内の運搬に適用する。

3 ~~傾斜による歩掛の補正は、下記により行う。~~地形等により高低差がある場合は下記の式により補正した距離の歩掛を適用する。

①順勾配 L (換算距離) = H (水平距離) + $6 \times h$ (高低差 (m))

~~②逆勾配 L (換算距離) = H (水平距離) \times [1.0 ~ 0.8] (補正係数)~~

4 200m以上は次により計算する。

$$\text{運搬歩掛} = \frac{\text{運搬距離}}{\text{定距離 (C)}} \times \text{定乗数 (B)} + \text{定加数 (A)}$$

5 本表には、人肩用のモッコ代を含む。

6 他の施工歩掛に分解できない積卸人工数が含まれている場合は定加数 (A) を控除する。

03-03-200 小車運搬 (SPB203)

「20 施工パッケージ No.22 人力運搬 (積込み～運搬～取卸し)、No.23 人力運搬 (運搬～取卸し)」による。
 施工パッケージは法勾配1:3.75 (15度)以下の現場で土砂 (粘性土、砂、砂質土、レキ質土及び岩塊・玉石混り土)を運搬する場合に適用し、それ以外は次を適用する。

1 仮置きされた諸資材等の標準歩掛

1) 適用範囲

本歩掛は仮置きされた土砂及び諸資材等を積込み～小車運搬～人力取卸しの一連作業に適用する。

2) 施工歩掛

表2.1 小車運搬 (1)

種別 距離	砂質土 粘性土	礫質土 砂利 砕石	岩塊 玉石 岩砕	コンクリート	セメント 鋼材 木材 二次製品等	積ブロック (控35cm) 連結 ブロック	平張 ブロック
m	人/m ³	人/m ³	人/m ³	人/m ³	人/t	人/m ²	人/m ²
20	0.14	0.19	0.22	0.21	0.09	0.05	0.02
40	0.16	0.21	0.25	0.25	0.10	0.05	0.03
60	0.20	0.25	0.31	0.34	0.12	0.07	0.03
80	0.25	0.31	0.36	0.41	0.15	0.09	0.04
100	0.30	0.36	0.42	0.50	0.18	(0.10)	(0.05)
120	0.35	0.43	0.49	(0.58)	0.21	(0.13)	(0.06)
140	(0.41)	(0.48)	(0.56)	(0.67)	(0.24)	(0.15)	(0.07)
160	(0.46)	(0.54)	(0.63)	(0.76)	(0.26)	(0.16)	(0.08)
180	(0.52)	(0.61)	(0.70)	(0.84)	(0.30)	(0.18)	(0.09)
200	(0.58)	(0.67)	(0.78)	(0.92)	(0.33)	(0.19)	(0.10)
定距離 (C) 100m 当たり	(A) 0.100	0.126	0.138	0.105	0.063	0.034	0.010
	(B) 0.250	0.264	0.330	0.411	0.134	0.080	0.045

備考1 本表には、小車の損料を含む。

2 岩砕とは軟岩 (II)、中硬岩、硬岩を破砕したものをいう。

3 () 内は原則として使用せずに他の経済的な運搬方法を別途考慮する。

4 ~~運搬路に勾配がある場合は、次表の係数を乗じた値を採用する。~~ 地形等により高低差がある場合は下記の式により補正した距離の歩掛を適用する。

~~①順勾配~~ L (換算距離) = H (水平距離) + $8 \times h$ (高低差 (m))

~~②逆勾配~~ L (換算距離) = H (水平距離) \times [1.0 ~~→~~ 0.8] (補正係数)

5 200m以上は次により計算する。

$$\text{運搬歩掛} = \frac{\text{運搬距離}}{\text{定距離 (C)}} \times \text{定乗数 (B)} + \text{定加数 (A)}$$

6 他の施工歩掛に分解できない積卸人工数が含まれている場合は定加数 (A) を控除する。

3 単価表

(小型) 不整地運搬車運転単価表

(1日当たり)

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊運転手		人	運転1h 労務歩掛×T	1t積未満は特殊作業員とする。
燃料費		ℓ	運転1h 燃料消費量×T	
機械賃料	油圧ダンプ式	供用日	<u>¥2.18</u>	
計				

備考 (小型) 不整地運搬車の運転日当たり標準運転時間 (T) は、6.9h/日とする。

03-04-210 小型不整地運搬車運搬作業量 (100m³・t 当たり) (SQ0308)

1) 2.0t積小型不整地運搬車 作業条件: バックホウ積込 (山積0.8m³ (平積0.6m³))

(h/100m³)

	20m	40m	60m	80m	100m	150m	200m	250m	300m
粘性土	12.62	14.49	16.36	18.22	20.09	24.77	29.44	34.11	38.79
砂・砂質土	11.69	13.42	15.15	16.88	18.61	22.94	27.27	31.60	35.93
礫質土	11.69	13.42	15.15	16.88	18.61	22.94	27.27	31.60	35.93
購入砂 (洗砂)	9.76	11.21	12.66	14.10	15.55	19.17	22.78	26.40	30.02
砂利・栗石・玉石	9.76	11.21	12.66	14.10	15.55	19.17	22.78	26.40	30.02

2) 2.0t積小型不整地運搬車 作業条件: 人力積込

(h/100m³, h/100t)

	20m	40m	60m	80m	100m	150m	200m	250m	300m
コンクリート	34.38	36.30	38.22	40.14	42.07	46.88	51.68	56.49	61.30
木材	20.86	22.01	23.17	24.32	25.47	28.35	31.22	34.10	36.98
鋼材・その他	19.30	20.00	20.70	21.40	22.11	23.86	25.61	27.37	29.12

03-05 モノレール運搬

1 適用範囲

本歩掛は、単軌条レールを用いるモノレール (本機の牽引能力1,000kg未満、45度) に適用する。

2 施工概要

標準的な施工フローは以下のとおりである。

◇ 架設

◇ 運搬

◇ 撤去

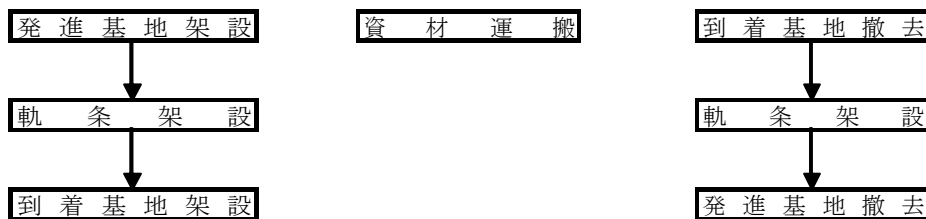


図2.1 施工フロー

備考 1 施工地域において、モノレール機材一式が調達可能かどうか確認のこと。

03-11-400 直接工事費に計上する鋼橋桁運搬費

1 鋼橋桁運搬費

鋼橋桁運搬費の積算は、各橋種ごとに表1.1鋼橋工場製作運搬費に示す回帰式を用いて積算するものとする。

表1.1 鋼橋工場製作運搬費

(1 t 当たり)

橋種	輸送単価 (円/t)
鋼桁 (鋼床版鋼桁を除く)	$Y = 35.07X + 13,051$
鋼桁 (鋼床版鋼桁のみ)	$Y = 33.11X + 14,686$
箱桁 (鋼床版箱桁を除く)	$Y = 29.94X + 12,939$
箱桁 (鋼床版箱桁のみ)	$Y = \del{26.38}23.93X + \del{13,472}16,437$
トラス・アーチ・ラーメン	$Y = 24.95X + 14,523$
橋脚	$Y = \del{26.12}23.44X + \del{8,516}15,721$
アンカーフレーム	$Y = 24.01X + 11,384$
横断歩道橋	$Y = 80.84X + 11,938$

Y : 輸送単価 (円/t)

X : 運搬距離 (km)

2 輸送の起算点

(1) 鋼橋等の輸送起算点は、次表を参考とする。

表2.1 鋼橋等の輸送起算点

区分	起算点	区分	起算点
鋼橋	札幌市	横断歩道橋・ 鋼製シェッド	札幌市
	北広島市		小樽市
	旭川市		北広島市
	苫小牧市		旭川市
	室蘭市		苫小牧市
	釧路市		室蘭市
			釧路市

(注) 1 各市町村で示されている起算点の起算場所は、市役所所在地とする。

2 上記によりがたい場合は、実態を考慮のうえ別途積算すること。

(2) プレキャスト製シェッド (コンクリート製品) の輸送起算点 (工場所在地) は次表を参考とする。

表2.2 プレキャスト製シェッド (コンクリート製品) の輸送起算点 (工場所在地)

区分	起算点
プレキャスト製 シェッド	栗山町
	登別市
	鶴居村

(注) 1 各市町村で示されている起算点の起算場所は、市役所所在地とする。

2 上記によりがたい場合は、実態を考慮のうえ別途積算すること。

(3) プレキャスト製PC桁の輸送起算点 (工場所在地) は次表を参考とする。

表2.3 プレキャスト製PC桁の輸送起算点 (工場所在地)

区分	起算点
プレキャスト製 PC桁	栗山町
	登別市
	愛別町 ※スラブ桁のみ可

(注) 1 各市町村で示されている起算点の起算場所は、市役所所在地とする。

2 上記によりがたい場合は、実態を考慮のうえ別途積算すること。

(3) 敷鉄板の積込、取卸しに要する費用

敷鉄板の積込・取卸しに要する費用は次のとおりとする。

表1.7 敷鉄板の積込み・取卸し費

場 所	作 業	費 用 (円/ t)		
		単独作業	設置のみ・撤去のみ	設置・撤去一式
基 地	積込み	750	1,500(750)	3,000(1,500)
現 場	取卸し	750(0)		
	積込み	750(0)		
基 地	取卸し	750		

注) 現地にて荷台から直接敷設・撤去する場合は括弧内の金額とする。詳細は、H23.7.28付け水林総第801号「敷鉄板運搬費等の積算計上について」によること。

(4) 輸送起算点

(1) 仮設鋼材の輸送起算点は下記の所在地を参考とする。

表1.8 輸送起算点 (仮設鋼材)

		旭川市	苫小牧市	北広島市	千歳市	江別市	伊達市	帯広市	比布町	池田町	美幌町	各市町村
鋼矢板	Ⅱ型	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	Ⅲ型	—	—	○	○	○	—	—	○	○	○	—
	Ⅳ型	—	—	○	○	○	—	—	—	—	—	—
軽量鋼矢板	Ⅱ型	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—
H型鋼 山留材 (主材・副部材)	H-200	—	—	○	○	○	—	—	—	—	—	—
	H-250	—	—	○	○	○	—	—	—	—	—	—
	H-300	—	—	○	○	○	—	—	○	○	○	—
	H-350	—	—	○	○	○	—	—	—	—	—	—
	H-400	—	—	○	○	○	—	—	—	—	—	—
(桁材)	H-594	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
覆工板		—	—	○	○	○	—	—	○	○	○	—
仮設防護柵	Gr-C-2B-2	—	—	○	—	○	—	—	—	○	○	—
仮設落石防護柵	H-125	○	○	—	—	—	○	—	—	—	—	—
敷鉄板												○

備考1 各市町村で示されている起算点の起算場所は、市役所又は役場とする。

2 次の事項により上表により難しい場合は、別途実態を勘案のうえ積算すること。

- ・使用数量が特に多い場合
- ・近傍にて数量を確保できる場合（鋼矢板・H形鋼・覆工板・仮設防護柵・仮設落石防護柵）
- ・近傍にて数量を確保できない場合（敷鉄板）
- ・上表に無い特別な資材については別途考慮する。

3 敷鉄板については「15-06-300敷鉄板設置・撤去」で計上した敷鉄板を対象とする。

(2) 仮橋の輸送起点は、下記の所在地を参考とする。

表1.9 輸送起点 (仮橋)

型 式	輸 送 起 点
ガードタイプ	札幌市、室蘭市、苫小牧市、旭川市
トラスタイプ	札幌市、苫小牧市、旭川市

備考 1 各市各町で示されている起算点の起算場所は、市役所又は役場とする。

2 近傍にて数量を確保できる場合は別途実態を勘案のうえ積算すること。

03-11-900 重建設機械分解組立及び運搬費 (SQ0305)

1 適用範囲

本歩掛は、工事現場に搬入・搬出する標準的な建設機械の分解・組立に適用し、適用する建設機械は次表のとおりとする。

表1.1 適用建設機械

機 械 区 分	適 用 建 設 機 械
ブ ル ド ー ザ	ブルドーザ (リッパ装置付を含む) 普通 21 t 級以上～44 t 級以下 湿地 20 t 級以上～28 t 級以下
バ ッ ク ホ ウ 系	バックホウ (超ロングアーム型は除く) 山積 1.0m ³ 以上～ 2.1m ³ 以下 (平積 0.7m ³ 以上～ 1.5m ³ 以下) 油圧クラムシェル・テレスコピック 平積 0.4m ³ 以上～ 0.6m ³ 以下
ク ロー ラ ク レ ー ン 系	クローラクレーン [油圧駆動式ウインチ・ラジジブ型、機械駆動式ウインチ・ラジジブ型] 吊り能力16 t 以上～ 300 t 以下 クラムシェル [油圧ロープ式・機械ロープ式] 平積 0.6m ³ 以上～ 3.0m ³ 以下 パイプロハンマ [クローラクレーン・油圧駆動式ウインチ・ラジジブ型50～55 t 吊]
ト ラ ッ ク ク レ ー ン	トラッククレーン [油圧伸縮ジブ型] 吊り能力 100 t 以上～ 500 t 以下
ク ロー ラ 式 杭 打 機	ディーゼルハンマ (防音カバー装備を除く) 油圧ハンマ アースオーガ (二軸同軸式を含む) ディーゼルハンマ・アースオーガ併用 モンケン・アースオーガ併用 鋼管ソイルセメント杭打機 アースオーガ併用圧入杭打機 アースオーガ中掘機 機械質量 20 t 以上～15 t 以下
オ ー ル ケ ー シ ン グ 掘 削 機	オールケーシング掘削機 [クローラ式] 掘削径 2,000mm以下 オールケーシング掘削機 [スキッド式] 掘削径 2,000mm以下
地 盤 改 良 機 械	サンドパイル打機 粉体噴射攪拌機 (付属機器除く) 深層混合処理機 プレファブリケティッドバーチカルドレーン打機 機械質量 20 t 以上～ 170 t 以下
ト ン ネ ル 用 機 械	自由断面トンネル掘進機 ドリルジャンボ <u>コンクリート吹付機</u> 機械質量 20 t 以上～60 t 以下
連 続 地 中 壁 用 機 械	地下連続壁施工機 [回転水平多軸・クローラ式] 壁厚 650mm～1,500mm 壁厚 1,200mm～2,400mm クローラ式アースオーガ [三軸式・直結3点支持式] オーガ出力90kw

04-01-450 施工概要

標準的な施工フローは、次のとおりとする。

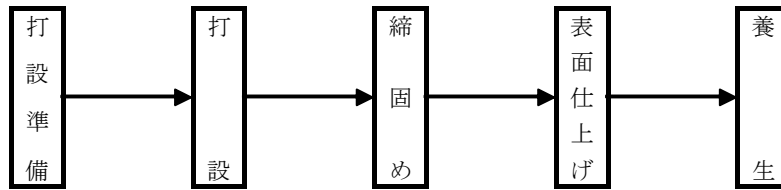


図1.3 施工フロー

04-01-500 投入打設機械

表1.1 打設投入機械

投入打設工法	機 械 名	規 格
人 力 投 入 打 設	ベルトコンベア シュート 人力運搬車 ケーブルクレーン	1・2輪車
コンクリートポンプ車 投 入 打 設	トラック架装 ・ブーム式	90～110m ³ /h
バ ッ ク ホ ウ (クレーン機能付) 打設	バックホウ (クローラ型)	標準型・超低騒音型・クレーン機能付 ・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)吊能力2.9t
ク レ ー ン 車 類 投 入 打 設	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 " 16 t 吊 " 20 " " 25 " " 35 "
	クローラクレーン	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧駆動式ウインチ・ラチズブ型 50 t 吊

備考 現場条件等により本表により難しい場合は、別途機種を選定する。

【参考】小型構造物クレーン車打設範囲

名 称	規 格	0.6m ³ バケット	
		打設範囲	
		打設高さ	水平打設距離
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型16 t 吊	約17m以下	約17m以下
	排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型20 t 吊	約25m以下	約18m以下
	排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型25 t 吊	約25m以下	約20m以下
	排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型35 t 吊	約28m以下	約20m以下
クローラクレーン	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧駆動式ウインチ・ラチズブ型50 t 吊	—	約30m以下

04-01-600 生コンクリート割増率

表1.1 コンクリート構造物の分類及び割増率

構 造 物 種 別	割 増 率
無 筋 構 造 物	7 %
鉄 筋 構 造 物	3 %
小 型 構 造 物	6 %

04-07 コンクリート養生工

04-07-100 コンクリート養生工 (SPC105)

本表は、一般養生における歩掛であり、特殊養生には適用しない。なお、冬期養生については「18-04 防寒養生費」を適用する。

表1.1 コンクリート養生工歩掛

(10m³当たり)

名 称	単 位	無筋構造物	鉄筋構造物	小型構造物
<u>土木一般世話役</u>	<u>人</u>	<u>0.08</u>	<u>0.05</u>	<u>0.18</u>
普通作業員	人	0.31 <u>0.25</u>	0.16 <u>0.13</u>	0.64 <u>0.52</u>
諸雑費	%	12 <u>10</u>	25 <u>21</u>	16 <u>13</u>
計				

備考1 本表は、一般養生による歩掛であり、特殊養生（電気養生、冬期養生等）を必要とする場合は、別途積算する。

- 2 普通作業員は、被覆、取除き、散水一切を含む。
- 3 諸雑費は、シート・養生マット、角材・パイプ、散水等に使用する機械の損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に本表の率を乗じた金額を上限として計上する。

04-08 水抜きパイプ取付 (SQ0401)

04-08-100 水抜きパイプ取付

表1.1 水抜きパイプ取付歩掛

(1箇所当たり)

名 称	規 格	単 位	20cm未満	20cm以上
水抜きパイプ	損耗量5%	m		
型 枠 工		人	0.04	0.08
計				

備考 本表は、04-09-700治山ダム型枠の設置・撤去歩掛を計上し、必要のある場合のみ適用する。

04-09 型枠工

1 型枠の選定基準

表1.1 型枠の選定基準

種 別	適 用 構 造 物 の 種 類
鉄筋構造物	・突桁式・扶壁式擁壁、橋台、橋脚、ボックスカルバート等の鉄筋量の多い構造物及びその他鉄筋量の多い構造物。
無筋構造物	・重力式擁壁、土留工、護岸工等のかなりマッシュな無筋構造物。 ・比較的単純な鉄筋を有する半重力式擁壁、土留工、橋台等の構造物。 ・コンクリート流路工、帯工。
小型構造物	・鉄止擁壁、土留工、護岸工、流路工等で最大高さ1m程度の構造物。 ・水路側溝、土留工、護岸工、流路工、なだれ防止柵の基礎等で、断面積が1m ² 以下で連続している構造物。 ・横断管渠の基礎、呑吐口の擁壁（ただし1m未満）、ガードケーブルの端末支柱基礎。 ・積ブロック天端、打止コンクリート。 ・コンクリート枠等のように比較的コンクリート量が少ない計上の複雑な構造物。 ・道路照明、標識、防護柵の基礎等の少量のコンクリート量で点在している構造物。
均し基礎	・樋門、樋管の均し、ボックスカルバートの均し、構造物の均し、雨水桝等の均し。 ・積ブロックの基礎。
治山ダム	04-09-700を参照。

04-09-400 一般型枠の製作・設置・撤去 (SPX125)

「20 施工パッケージ No.143 型枠」による。

なお、型枠用合板に道産材を使用する場合は、コンクリート型枠用合板との差額を計上し、転用回数は鉄筋・無筋構造物は2.3回、小型構造物は1回を標準とする。

表3.1 まく板パネル型枠の製作・設置・撤去歩掛 (100m2当たり)

名 称	単 位	数 量	摘 要
世 話 役	人	3.1	
型 枠 工	〃	15.7	
普 通 作 業 員	〃	10.0	
ま く 板 パ ネ ル	m2	100/n	n は転用回数
諸 雑 費 率	%	19	

- 備考 1 諸雑費は、電気ドリル、電動ノコギリ、まく板パネルの持ち上（下）げに係る機械経費、組立支持材、はく離剤等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
- 2 まく板パネルの転用回数nは、2回を標準とする。
- 3 まく板パネルの割り増しが必要な場合は、別途考慮する。
- 4 現地でパネル製作を行う場合は、別途積算する。
- 5 本歩掛には、20m程度の現場内小運搬を含む。

(参考) 型枠表面処理

型枠表面にコーティング材（液体ガラス）を使用する場合は次表を参考とする。

区 分	塗 布 量		乾燥時間・湿度	備 考
	1回目使用時 (新規)	2回目使用時 (転用)		
下塗り	80g/m2	(80g/m2)	3時間程度・5℃以上	酸化防止剤配合
中塗り	40g/m2	(80g/m2)	3時間程度・5℃以上	酸化防止剤配合
上塗り	40g/m2	40g/m2	24時間程度・5℃以上	

※ () 書きは型枠表面の損耗状態が著しい場合の塗布量であり、塗布にあたっては素地調整（紙ヤスリ等）を行うこととする。

注1：塗布中及び乾燥中は雨風に曝さないよう留意すること。

04-09-970 角材式残存型枠工 (参考)

1 適用範囲

本歩掛は、工場加工された角材を専用の金具、支持材を用いて、現地で組み立てる残存型枠工で、治山ダム等のコンクリート構造物を施工する場合に適用する。

型枠材料として使用する角材の規格は、断面寸法9cm×9cm程度、長さ3m程度を標準とする。

2 施工歩掛

角材式残存型枠工の組立・設置にかかる施工歩掛は次表とする。

表1.1 角材式残存型枠工施工歩掛 (100m2当たり)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	3.6	
型 枠 工		〃	5.0 6.4	
普 通 作 業 員		〃	13.5 17.4	
角 材 等	9cm×9cm角材 (ボルト加工材) 組立用 資材 金物、支持材一式を含む	m2	100	
諸 雑 費 率		%	13	

- 備考 1 諸雑費は、電気ドリル損料、電力に関する経費、角材の切り揃え、持上（下）げ機械の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
- 2 本歩掛には、組立・設置に必要な材料等の20m程度の現場内小運搬を含む。
- 3 本歩掛に示す角材等には、必要に応じて、ロスを見込むことができる。
- 4 組立用資材は、全ネジ通しボルト・ナット、連結金具、ユニクロコースレッド125mm である。

04-15 足場工

04-15-100 適用範囲

本歩掛は、構造物施工に係る平均設置高30m以下の足場工に適用する。

適用する足場の種類は、手摺先行型枠組足場、単管足場、単管傾斜足場とする。

なお、高さ2m未満の構造物の足場には、適用しないこと。

また、鋼橋床版、トンネル等で標準歩掛が設定されている工種には、適用しないこと。

04-15-110 施工概要

標準施工フローは、次のとおりとする。

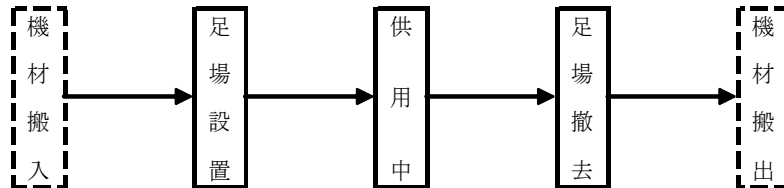
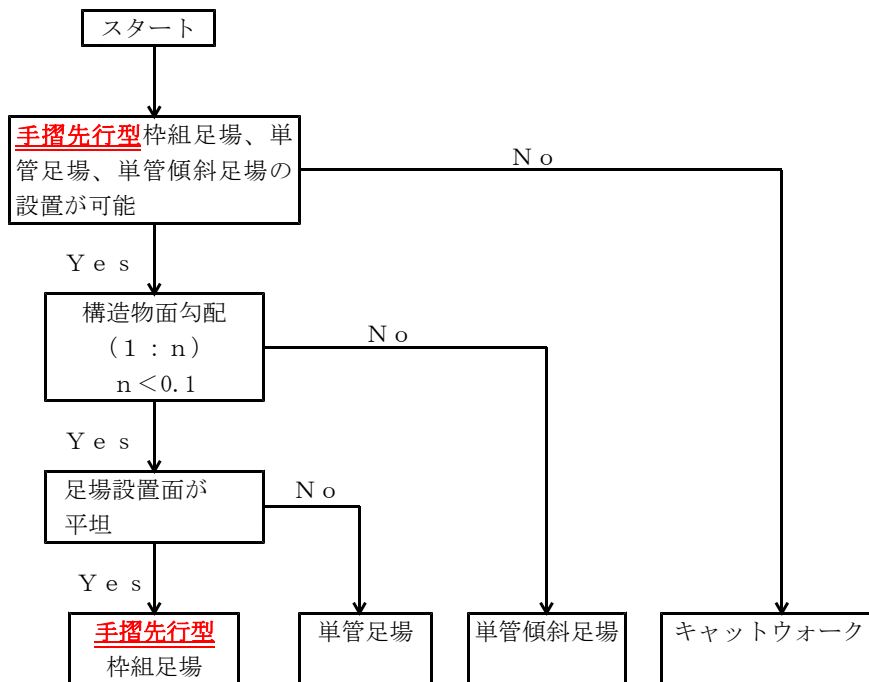


図1.1 施工フロー

備考 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

04-15-200 工法の選定

工法の選定は、次のとおりとし、構造物の直高が2m以上の場合に適用する。



備考1 キャットウォークとは、斜面用簡易足場ブラケット等を使用した足場をいう。

2 切土部擁壁（土留工）の背面側には、単管傾斜足場を適用する。

04-15-400 足場設置・撤去工 (SPH501)

表1.1 足場設置・撤去歩掛

(100掛m2当たり)

名 称	規 格	単 位	手摺先行型 枠組足場	単管足場	単管傾斜足場
世話役		人	1.4 1.6	1.7 1.9	1.4 1.5
とび工		〃	6.3(7.7) 7.0(8.5)	6.3(7.7) 6.9(8.4)	4.1(5.6) 4.5(6.1)
普通作業員		〃	1.2 1.3	1.6 1.8	2.5 2.7
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (第3次基準 値) 油圧伸縮ジブ型25 t 吊 低騒音型	日	1.4	0.8	0.8
諸雑費率		%	34(31)	32(29) 29(27)	35(30) 33(28)

備考1 安全ネットが必要な場合は、() 内の数値を計上する。

2 諸雑費は、足場工仮設材 (賃料) 等の費用であり、労務費と機械運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

なお、諸雑費には供用中の足場材料損料賃料を含み、現場内での段取り替えに伴うすべての費用を含むものとする。

表1.2 仮設材内訳

種 類	仮 設 材 内 訳
手摺先行型 枠組足場	壁つなぎ、敷板、建枠、板付布枠、筋違、連結ピン、アームロック、ジャッキベース、手摺柱、手摺、手摺枠 (二段手摺の機能を有する)、幅木、階段、養生ネット、または安全ネットを使用した場合の安全ネット 等
単管足場	丸パイプ、直交クランプ、自在クランプ、直線ジョイント、固定ベース、壁つなぎ、敷板、足場板、階段、養生ネット、または安全ネットを使用した場合の安全ネット 等
単管傾斜足場	丸パイプ、直交クランプ、自在クランプ、直線ジョイント、固定ベース、足場板、養生ネット、または安全ネットを使用した場合の安全ネット 等

3 ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

4 安全ネットの設置基準は、次のとおりとする。

① 必ず設置する場合

- ・地上高4m以上の作業で物の落下等により一般通行に危険を及ぼす可能性がある場合

② 必要に応じて設置する場合

- ・地上高4m以下の作業で物の落下等により作業員等に危険を及ぼす可能性がある場合
- ・作業現場内において、物の落下等により作業員等に危険を及ぼす可能性があり、安全ネットを設置することが必要と判断される場合

③ 不要の場合

- ・上記以外の場合

04-15-800 キャットウォーク (SPH601)

本歩掛は、特殊擁壁工の笠コンクリート等のように、作業場所が狭隘で枠組足場及び単管足場等が設置できない場合に適用する。

(施工延長10m当たり)

名 称	規 格	単 位	数 量
世話役		人	0.1
とび工		〃	0.4
普通作業員		〃	0.4
諸雑費率		%	14

備考1 諸雑費率は、キャットウォーク、丸パイプ、直交クランプ、板付布枠、幅木等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

2 高さ方向の標準設置間隔は、1.8mとする。

04-16-400 支保工設置・撤去 (SPH701)

支保材の設置・撤去歩掛は、次表とする。ただし、40空m3以下の小規模工事では小規模歩掛を適用できる。

表1.1 支保工設置・撤去歩掛

(100空m3当たり)

名 称	規 格	単 位	支保耐力 f (k N/m2)			
			パイプサポート支保		くさび結合支保	
			f ≤ 40	40 < f ≤ 60	f ≤ 40	40 < f ≤ 80
コンクリート厚(t)(参考)		cm	t ≤ 120cm	120 < t ≤ 190	t ≤ 120cm	120 < t ≤ 250
世話役		人	2.6	4.2	1.4	2.1
型枠工		〃	4.7	8.7	1.3	2.7
とび工		〃	2.2	2.4	3.3	4.2
普通作業員		〃	5.1	11.1	3.3	6.0
ラフテレーンクレーン 運 転	排出ガス対策型 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	日	—		0.5	1.2
諸雑费率		%	15		33	

備考1 諸雑費は、仮設器材等の費用であり、労務費及び機械経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

- ・パイプサポート支保における仮設器材内訳は、パイプサポート、型枠受台、根がらみ、水平つなぎ、根がらみクランプ、直交クランプ、頭つなぎ等である。
- ・くさび結合支保における仮設器材内訳は、ジャッキベース、大引受ジャッキ、建地材、つなぎ材、斜材等である。

- 参考値のコンクリート厚について、張出し部等で断面の変化する場合のコンクリート厚は、平均とする。
- ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

表1.2 支保工設置・撤去歩掛 (小規模)

(10空m3当たり)

名 称	単 位	支保耐力 f (k N/m2)
		パイプサポート支保
		f ≤ 40
コンクリート厚(t)(参考)	cm	t ≤ 120cm
総設置数量	空m3	40以下
世話役	人	0.29
型枠工	〃	0.53
とび工	〃	0.25
普通作業員	〃	0.57
諸雑费率	%	13

- パイプサポート支保の機械未使用とする
- 総設置数量を40空m3以下とする。

04-18 構造物補修工

04-18-100 構造物補修工（ひび割れ補修工（充てん工法））

1 適用範囲

本資料は、コンクリート構造物のひび割れ補修における1構造物当たりの充てん作業に適用する。なお、以下の条件は適用外とする。

- ・水中部
- ・道路トンネル（覆道、道路ボックスカルバート等含む）

（注）1構造物とは、1橋梁や1樋門等の全体を指し、構造物の規模や橋梁の上部・下部の区分、樋門等の連数による区分は設けない。

2 施工概要

施工フローは、下図を標準とする。

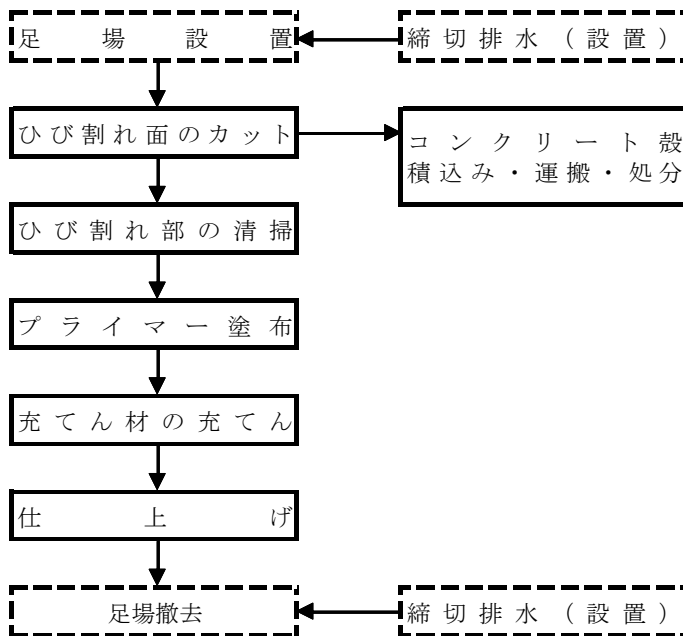


図2.1 施工フロー図

備考1 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

2 仕上げには養生含む。ただし、現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。

~~3 編成人員~~

~~ひび割れ補修工（充てん工法）の編成人員は、次表を標準とする。~~

~~表3.1 編成人員~~

~~(大/構造物)~~

土木一般世話役	特殊作業員	普通作業員
主	主	主

~~4.3 施工歩掛~~

(1) ひび割れ補修工（充てん工法）

ひび割れ補修工（充てん工法）の歩掛は、次表を標準とする。

表4.1 ひび割れ補修工（充てん工法）歩掛

[1 構造物当たり補修延べ延長 20m未満の場合]

名称	単位	数量 (D1) (1構造物当たり)
土木一般世話役	人	0.85
特殊作業員	人	1.3
普通作業員	人	1.1

表4.2 ひび割れ補修工（充てん工法）歩掛

[1 構造物当たり補修延べ延長 20m以上の場合]

名称	単位	数量 (D2) (10m当たり)
土木一般世話役	人	0.43
特殊作業員	人	0.65
普通作業員	人	0.57

備考1 歩掛は、全ての施工方向に適用できる。

- 2 現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。
- 3 コンクリート殻の積込み・運搬及び処分費は別途計上する。
- 4 仮締切・排水・足場等については、現場条件を考慮の上、別途計上する。

(2) 諸雑費

諸雑費は、各作業に必要な器具（ディスクサンダー等）の費用、ディスクサンダーの替え刃の費用、プライマー材料費、電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表4.3 諸雑费率 (%)

1 構造物当たり補修延べ延長	諸雑费率
20m未満の場合	17
20m以上の場合	

(3) 材料使用数量

充てん材の材料使用数量は、次式による。

$$\text{使用数量(kg)} = \text{設計数量(kg)} \times (1+K) \dots\dots\dots(\text{式4.1})$$

K：ロス率

表4.4 ロス率

ロス率	+0.20
-----	-------

5 単価表

(1) ひび割れ補修工（充てん工法）[1 構造物当たり補修延べ延長20m未満の場合]

(1 構造物当たり)

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	D1	表4.1
特殊作業員		人	D1	表4.1
普通作業員		人	D1	表4.1
充てん材材料費		kg		式4.1
諸雑費		式	1	表4.3
計				

備考 D1：1構造物当たりの施工数量

(2) ひび割れ補修工（充てん工法）〔1 構造物当たり補修延べ延長20m以上の場合〕

(1 構造物当たり)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土木一般世話役		人	L/10×D2	表4.2
特殊作業員		人	L/10×D2	表4.2
普通作業員		人	L/10×D2	表4.2
充てん材材料費		kg		式4.1
諸雑費		式	1	表4.3
計				

備考 1 L：1構造物当たりの補修延べ延長(m)

2 D2：10m当たり施工数量

04-18-200 構造物補修工（ひび割れ補修工（低圧注入工法））

1 適用範囲

本資料は、コンクリート構造物のひび割れ補修における1構造物当たりの低圧注入作業（圧縮空気、ゴムやバネの復元力などを利用して加圧できる専用器具を用いて注入を行うもの）に適用する。なお、以下の条件は適用外とする。

- ・ グリースポンプ等の手動ポンプを用いて手動で注入を行う場合
- ・ 足踏みポンプや電動ポンプ等の機械を用いて注入を行う場合
- ・ 水中部
- ・ 道路トンネル（覆道、道路ボックスカルバート等含む）

（注）1 構造物とは、1 橋梁や1 樋門等の全体を指し、構造物の規模や橋梁の上部・下部の区分、樋門等の連数による区分は設けない。

2 施工概要

施工フローは、下図を標準とする。

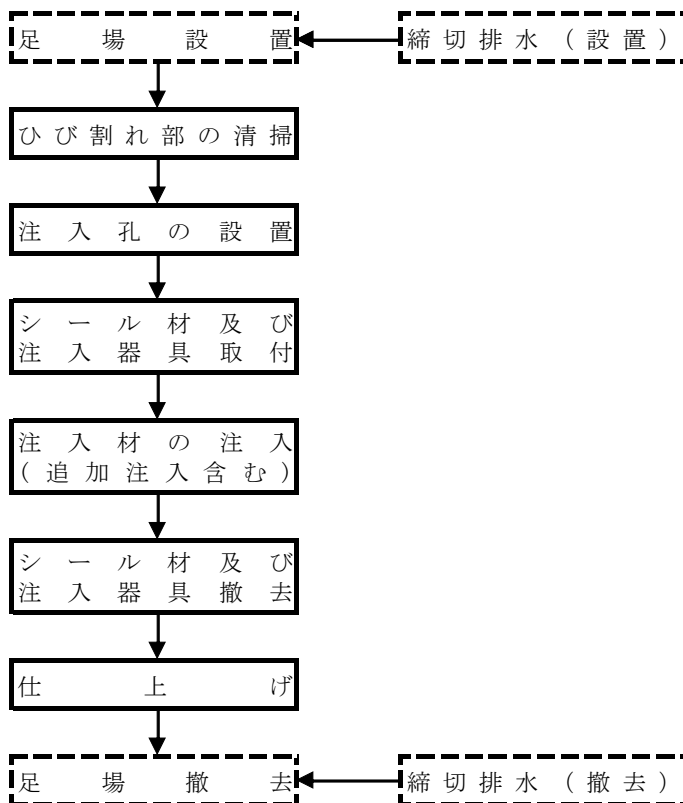


図2.1 施工フロー図

- 備考1 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。
 2 注入器具の種類によって作業の順序が前後する場合も適用することが出来る。

~~3 編成人員~~

~~ひび割れ補修工（低圧注入工法）の編成人員は、次表を標準とする。~~

~~表3.1 編成人員~~

~~(大/構造物)~~

土木一般世話役	特殊作業員	普通作業員
1	2	1

~~4.3 施工歩掛~~

(1) ~~ひび割れ補修工（低圧注入工法）~~

~~ひび割れ補修工（低圧注入工法）の歩掛は、次表を標準とする。~~

~~表4.1 ひび割れ補修工（低圧注入工法）歩掛~~

~~[1 構造物当たり補修延べ延長 25m未満の場合]~~

名称	単位	数量 (D1) (1構造物当たり)
土木一般世話役	人	1.5
特殊作業員	人	2.4
普通作業員	人	1.8

~~表4.2 ひび割れ補修工（低圧注入工法）歩掛~~

~~[1 構造物当たり補修延べ延長 25m以上の場合]~~

名称	単位	数量 (D2) (10m当たり)
土木一般世話役	人	0.58
特殊作業員	人	0.96
普通作業員	人	0.71

- 備考1 歩掛は、全ての施工方向に適用できる。
 2 現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。
 3 コンクリート殻の積込み・運搬及び処分費は別途計上する。
 4 仮締切・排水・足場等については、現場条件を考慮の上、別途計上する。

(2) ~~諸雑費~~

~~諸雑費は、各作業に必要な器具（ディスクサンダー等）の費用、ディスクサンダーの替え刃の費用、電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。~~

~~表4.3 諸雑费率 (%)~~

1 構造物当たり補修延べ延長	諸雑费率
25m未満の場合	6
25m以上の場合	

(3) ~~材料使用数量~~

~~充てん材の材料使用数量は、次式による。~~

~~使用数量(kg) = 設計数量(kg) × (1+K) (式4.1)~~

~~K：ロス率~~

表4.4 ロス率

ロス率	+0.37
-----	-------

5 単価表

(1) ひび割れ補修工（低圧注入工法）[1構造物当たり補修延べ延長25m未満の場合]

(1 構造物当たり)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土木一般世話役		人	D1	表4.1
特殊作業員		人	D1	表4.1
普通作業員		人	D1	表4.1
注入材		kg		必要数量計上(備考1)
シール材		kg		式4.1
低圧注入器具		個		必要数量計上(備考1)
諸雑費		式	1	表4.3
計				

備考1 必要数量とは、材料ロス分を含む

2 D1：1構造物当たりの施工数量

(2) ひび割れ補修工（低圧注入工法）[1構造物当たり補修延べ延長25m以上の場合]

(1 構造物当たり)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土木一般世話役		人	$L/10 \times D2$	表4.2
特殊作業員		人	$L/10 \times D2$	表4.2
普通作業員		人	$L/10 \times D2$	表4.2
注入材		kg		必要数量計上(備考1)
シール材		kg		式4.1
低圧注入器具		個		必要数量計上(備考1)
諸雑費		式	1	表4.3
計				

備考1 必要数量とは、材料ロス分を含む

2 L：1構造物当たりの補修延べ延長(m)

3 D2：10m当たり施工数量

04-18-300 構造物補修工（断面修復工（左官工法））

1 適用範囲

本資料は、コンクリート構造物の断面修復における1構造物当たりの左官作業に適用する。なお、以下の条件は適用外とする。

- ・水中部
- ・道路トンネル（覆道、道路ボックスカルバート等含む）

（注）1構造物とは、1橋梁や1樋門等の全体を指し、構造物の規模や橋梁の上部・下部の区分、樋門等の連数による区分は設けない。

2 施工概要

施工フローは、下図を標準とする。

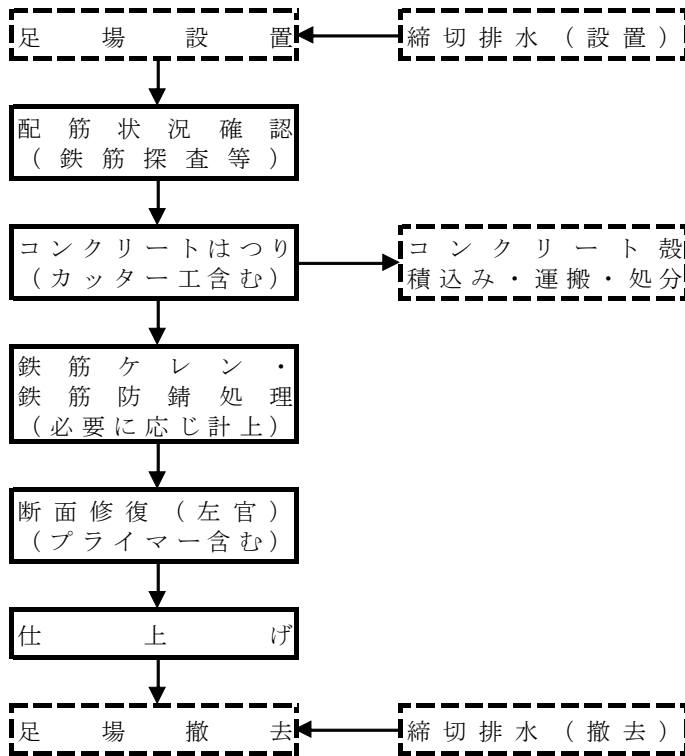


図2.1 施工フロー図

備考1 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

2 仕上げに養生は含まない。ただし、現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。

~~3 編成人員~~

~~断面修復工 (左官工法) の編成人員は、次表を標準とする。~~

~~表3.1 編成人員~~

~~(大/構造物)~~

土木一般世話役	特殊作業員	普通作業員
≒	≒	≒

~~4.3 施工歩掛~~

(1) 断面修復工 (左官工法) (鉄筋ケレン・防錆処理を含む)

コンクリートはつり (カッター工含む)、鉄筋ケレン・防錆処理、左官 (プライマー・仕上げ含む) の歩掛は、次表を標準とする。

表~~4.3~~1 断面修復工 (左官工法) (鉄筋ケレン・防錆処理を含む) 歩掛

[1 構造物当たり修復延べ体積 0.1m³未満の場合]

名称	単位	数量 (D1) (1構造物当たり)
土木一般世話役	人	2.3
特殊作業員	人	3.8
普通作業員	人	2.5

表4.2 断面修復工（左官工法）（鉄筋ケレン・防錆処理を含む）歩掛

[1 構造物当たり修復延べ体積 0.1m³以上の場合]

名称	単位	数量（D2） （0.1m ³ 当たり）
土木一般世話役	人	2.3
特殊作業員	人	3.8
普通作業員	人	2.5

備考1 歩掛は、全ての施工方向に適用できる。

- 2 現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。
- 3 コンクリート殻の積み込み・運搬及び処分費は別途計上する。
- 4 仮締切・排水・足場等については、現場条件を考慮の上、別途計上する。

(2) **断面修復工（左官工法）（鉄筋ケレン・防錆処理を含まない）**

コンクリートはつり（カッター工含む）、左官（プライマー・仕上げ含む）の歩掛は、次表を標準とする。

表4.3 断面修復工（左官工法）（鉄筋ケレン・防錆処理を含まない）歩掛

[1 構造物当たり修復延べ体積 0.1m³未満の場合]

名称	単位	数量（D3） （1構造物当たり）
土木一般世話役	人	1.9
特殊作業員	人	3.2
普通作業員	人	2.1

表4.4 断面修復工（左官工法）（鉄筋ケレン・防錆処理を含まない）歩掛

[1 構造物当たり修復延べ体積 0.1m³以上の場合]

名称	単位	数量（D4） （0.1m ³ 当たり）
土木一般世話役	人	1.9
特殊作業員	人	3.2
普通作業員	人	2.1

備考1 歩掛は、全ての施工方向に適用できる。

- 2 現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。
- 3 コンクリート殻の積み込み・運搬及び処分費は別途計上する。
- 4 仮締切・排水・足場等については、現場条件を考慮の上、別途計上する。

(3) **材料の使用量**

断面修復材の使用量は、次式による。

$$\text{使用量(m}^3\text{)} = \text{設計数量(m}^3\text{)} \times (1 + K) \dots\dots\dots \text{(式4.1)}$$

K：ロス率

表4.5 ロス率

ロス率	+0.18
-----	-------

(4) **諸雑費**

諸雑費は、カッター、はつり及び鉄筋ケレン作業に必要な器具（電動ピック、ディスクサンダー、替え刃等）、防錆処理・プライマー塗布作業に必要な器具（ディスクサンダー等）及び材料、左官作業に必要な器具（金コテ、ハンドミキサー等）、電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表4.6 諸雑費率 (%)

条 件	1 構造物当たり補修延べ体積	諸雑費率
鉄筋ケレン・防錆処理を含む	0.1m3未満の場合	11
	0.1m3以上の場合	11
鉄筋ケレン・防錆処理を含まない	0.1m3未満の場合	9
	0.1m3以上の場合	9

5 単価表

(1) 断面修復工 (左官工法) (鉄筋ケレン・防錆処理を含む)

[1 構造物当たり修復延べ体積0.1m3未満の場合]

(1 構造物当たり)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土木一般世話役		人	D1	表4.1
特殊作業員		人	D1	表4.1
普通作業員		人	D1	表4.1
断面修復材		m3		式4.1
諸雑費		式	1	表4.6
計				

備考1 D1: 1構造物当たりの施工数量

(2) 断面修復工 (左官工法) (鉄筋ケレン・防錆処理を含む)

[1 構造物当たり修復延べ体積0.1m3以上の場合]

(1 構造物当たり)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土木一般世話役		人	$V/0.1 \times D2$	表4.2
特殊作業員		人	$V/0.1 \times D2$	表4.2
普通作業員		人	$V/0.1 \times D2$	表4.2
断面補修材		m3		式4.1
諸雑費		式	1	表4.6
計				

備考1 V: 1構造物当たりの修復延べ体積(m3)

2 D2: 0.1m3当たり施工数量

(3) 断面修復工 (左官工法) (鉄筋ケレン・防錆処理を含まない)

[1 構造物当たり修復延べ体積0.1m3未満の場合]

(1 構造物当たり)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土木一般世話役		人	D3	表4.3
特殊作業員		人	D3	表4.3
普通作業員		人	D3	表4.3
断面修復材		m3		式4.1
諸雑費		式	1	表4.6
計				

備考1 D3: 1構造物当たりの施工数量

(4) 断面修復工（左官工法）（鉄筋ケレン・防錆処理を含まない）

[1 構造物当たり修復延べ体積0.1m³以上の場合]

(1 構造物当たり)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土木一般世話役		人	$V/0.1 \times D4$	表43.4
特殊作業員		人	$V/0.1 \times D4$	表43.4
普通作業員		人	$V/0.1 \times D4$	表43.4
断面補修材		m ³		式43.1
諸雑費		式	1	表43.6
計				

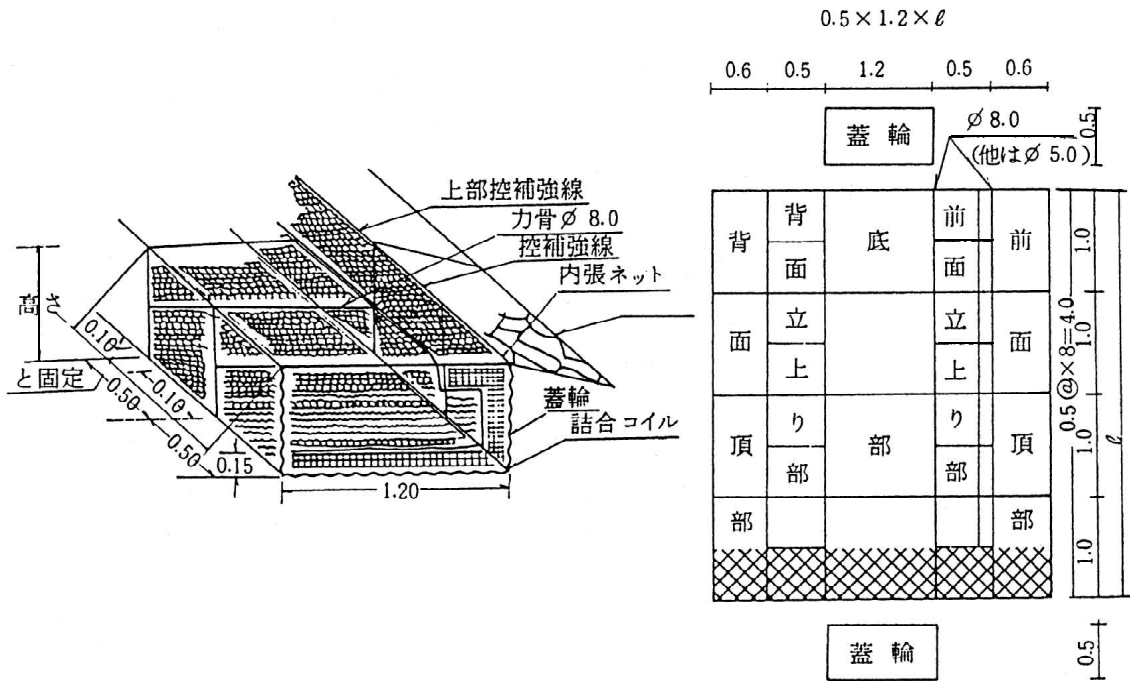
備考1 V : 1構造物当たりの修復延べ体積(m³)

2 D4 : 0.1m³当たり施工数量

【参考】1構造物について（橋梁）

1構造物と考える場合（例）	1構造物と考えない場合（例）
<p>上部工又は下部工が分離しているが、一体として橋梁の構造を形成している場合は、1構造物と考える。</p>	<p>上り線、下り線等、上部工と下部工が分離した橋梁の場合は、2構造物と考える。</p>

(参考図)



06-08 鋼製ダム工

06-08-100 鋼製バットレス式治山ダム工 (SPL601)

本歩掛は、透水型治山ダムのうち、工場製作した鋼製部材を使用し、鋼製バットレス式鋼製治山ダムの組立を施工する場合に適用する。

表1.1 鋼製ダム部材組立・据付歩掛 (1 t 当たり)

名 称	高 さ	単 位	高 さ		
			4.5m以下	4.5mを超え 6.0m未満	6.0m以上 の場合
世 話 役		人	0.3	0.3	0.3
普 通 作 業 員		〃	3.0	2.7	2.4
ラフテレーンクレーン賃料		日	0.2	0.2	0.2
計					

備考1 本表には、20m以内の小運搬を含む。

2 ラフテレーンクレーンの規格は、排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型16 t 吊を標準とする。

3 本表の高さは、基礎部から放水路天端までの直高とする。

06-23 ガードケーブル設置工

1 適用範囲

本資料は、~~ガードケーブル~~（「~~耐雪型ガードケーブル~~」を含む。）の新設及び維持修繕工事等における~~ガードケーブル~~の設置（撤去を除く。）に適用する。耐雪型を含むガードケーブルの設置等に適用する。

~~なお、耐雪型は、積雪ランクの違いに関係なく本歩掛りが適用できる。~~

本歩掛は、ケーブル間隔保持材の有無にかかわらず適用でき、耐雪型の場合は積雪ランクの違いにかかわらず適用できる。

ただし、アンカーボルト等を使用した着脱式支柱には適用できない。

また、「耐雪型」でも、下記の場合は歩掛のみ「標準型」を適用すること。

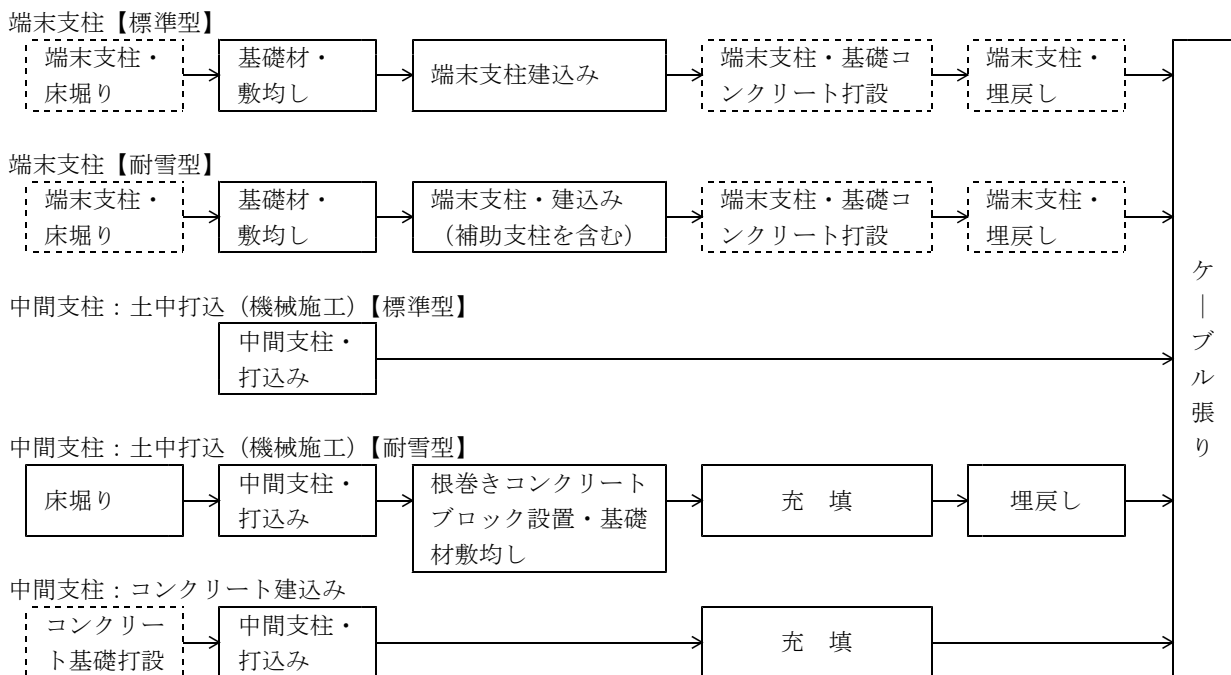
端末支柱：補助支柱が無いもの

中間支柱：根巻きコンクリートブロック等が無いもの

2 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

図2-1 施工フロー



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

3 ガードケーブルの種類

ガードケーブルの種類は、次のとおりとする。

表3.1 ガードケーブルの種類

区分	土中建込用	コンクリート建込用	ケーブル条数
	規格	規格	
路側用	Gc-B-6E, Gc-B2-6E, Gc-B3-5E	Gc-B-4B, Gc-B2-4B, Gc-B3-4B	4
	Gc-C-6E, Gc-C2-6E, Gc-C3-5E	Gc-C-4B, Gc-C2-4B, Gc-C3-4B	3

(注) 耐雪型における積雪ランク「1」については、標準型を適用する。

4 機種を選定

端末支柱、中間支柱(土中打込用、コンクリート建込用)の建込み・打込みにおける機械・規格は、次表を標準とする。

表4.1 機種を選定

作業種別	機械名	規 格	単 位	台数
端末支柱 中間支柱(コンクリート建込) ケーブル張	トラック(クレーン装置付)	ベーストラック4~4.5t積・吊り能力2.9t	台	1
中間支柱(コンクリート建込)	ガードレール支柱打込機	モンケン式 モンケン質量400~600kg	台	1

5 施工歩掛

06-23-100 端末支柱設置 (SQ0605)

表5.1 施工歩掛 (端末支柱)

(端末支柱100本当たり)

名 称	規 格	単 位	標準型	耐雪型
土木一般世話役		人	4.1	4.7
特殊作業員		〃	1.9	2.2
普通作業員		〃	11.0	12.4
トラック(クレーン装置付) 運転	クレーン装置付ベーストラック4~4.5t積吊り能力2.9t	h	106	117

- (注) 1 上表は、~~全~~資材等の現場内小運搬及び基礎材の敷均し手間を含む。
 2 上表は、支柱の建込みを対象としており、床掘り、埋戻しは、別途計上する。
 3 基礎材敷均しを含むが、材料は別途計上する。
 4 コンクリート基礎は、別途計上する。
 5 耐雪型には、補助支柱の設置手間を含むため、補助支柱の無いものは標準型を使用すること。

06-23-200 中間支柱設置 (SQ0606)

表5.2 施工歩掛 (中間支柱)

(中間支柱100本当たり)

名 称	規 格	単 位	土中・機械打込み		コンクリート建込み
			標準型	耐雪型	
土木一般世話役		人	2.5	2.8	2.9
特殊作業員		〃	—	—	1.0
普通作業員		〃	5.9	7.1	8.7
ガードレール支柱打込機 運転	モンケン式400~600kg	h	26.8	25.3	—
トラック(クレーン装置付) 運転	クレーン装置付ベーストラック4~4.5t積吊り能力2.9t	h			16.2
諸 雑 費			—	12	3

- (注) 1 上表は、~~全~~資材等の現場内小運搬及びケーブル用ブラケットの取付けを含む。
 2 耐雪型には、作業土工、基礎材・根巻きコンクリートブロックの設置及びモルタル充填を含むため、これらを含まない場合は、標準型を使用すること。
 3 コンクリート建込には、充填を含む。
 4 諸雑費には、コテ・金棒・スコップ・バケツ・一輪車等、モルタルの攪拌・運搬・充填用の器具、ほうき等の清掃用具を含む。~~諸雑費は、及び~~コンクリート建込にはモルタル、耐雪型にはモルタル、基礎砕石、鉄筋の材料費を含んでおり、労務費の合計に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
~~5 中間支柱には、ブラケット取付け等を含む。~~
~~6~~5 耐雪型の根巻きコンクリートブロックの材料費は、別途計上する。
~~7~~6 撤去は歩掛の50%とし、諸雑費は計上しない。

06-23-300 ケーブル張 (SQ0607)

表5.3 施工歩掛 (ケーブル張)

(ケーブル100m当たり)

名 称	規 格	単 位	B種	C種
土木一般世話役		人	0.6	0.4
普通作業員		〃	2.4	1.8
トラック (クレーン装置付) 運転	<u>クレーン装備付</u> ベーストラック 4 <u>~4.5</u> t積吊り能力2.9t	h	0.9	0.7

(注) 1 上表は、全て資材等の現場内小運搬を含む。

2 ~~ケーブル張の歩掛~~ 上表は、ガードケーブル (各種別) 施工延長当たりの歩掛であり、ケーブル引伸し、取付け等を含む。

3 撤去は歩掛の50%とする。

06-23-400 端末支柱 (基礎付) 設置・撤去

表5.4 施工歩掛 (端末支柱 (基礎付))

(1基当たり)

名 称	規 格	単 位	撤 去	設 置
土木一般世話役		人	0.12	0.22
普通作業員		〃	0.25	0.46
ラフタレーンクレーン(25t)賃料	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	日	0.10	0.14

(注) 1 小運搬が必要な場合は別途考慮すること。

2 床掘、埋戻し、基礎材は別途計上する。

6 材料の使用量

端末支柱における基礎碎石の使用量は、次式による。

使用量 (m3) = 設計数量 (m3) × (1 + K)

K: ロス率

表6.1

<u>ロス率</u>	<u>+0.2</u>
------------	-------------

7 作業日当たり標準作業量

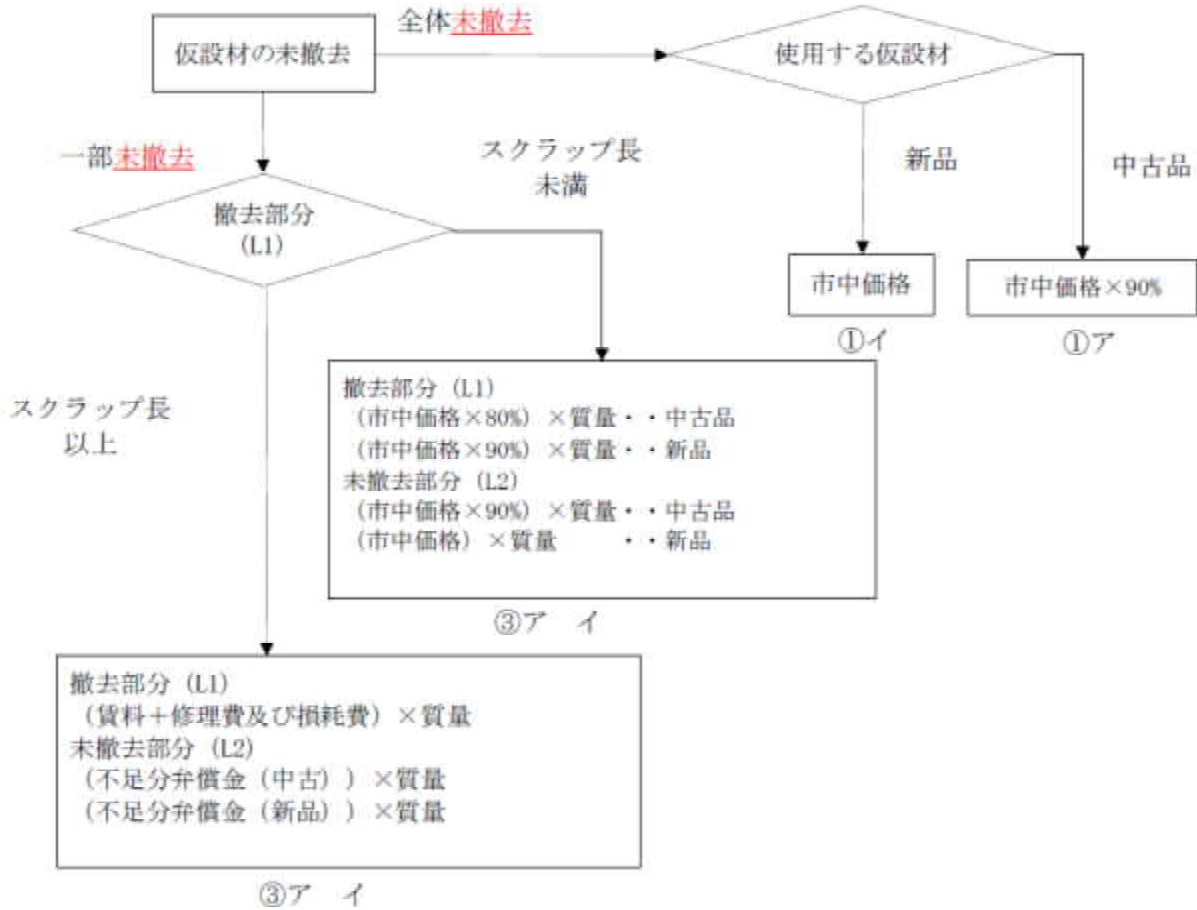
作業日当たり標準作業量は、次表を標準とする。

表7. 1 作業日当たり標準作業量

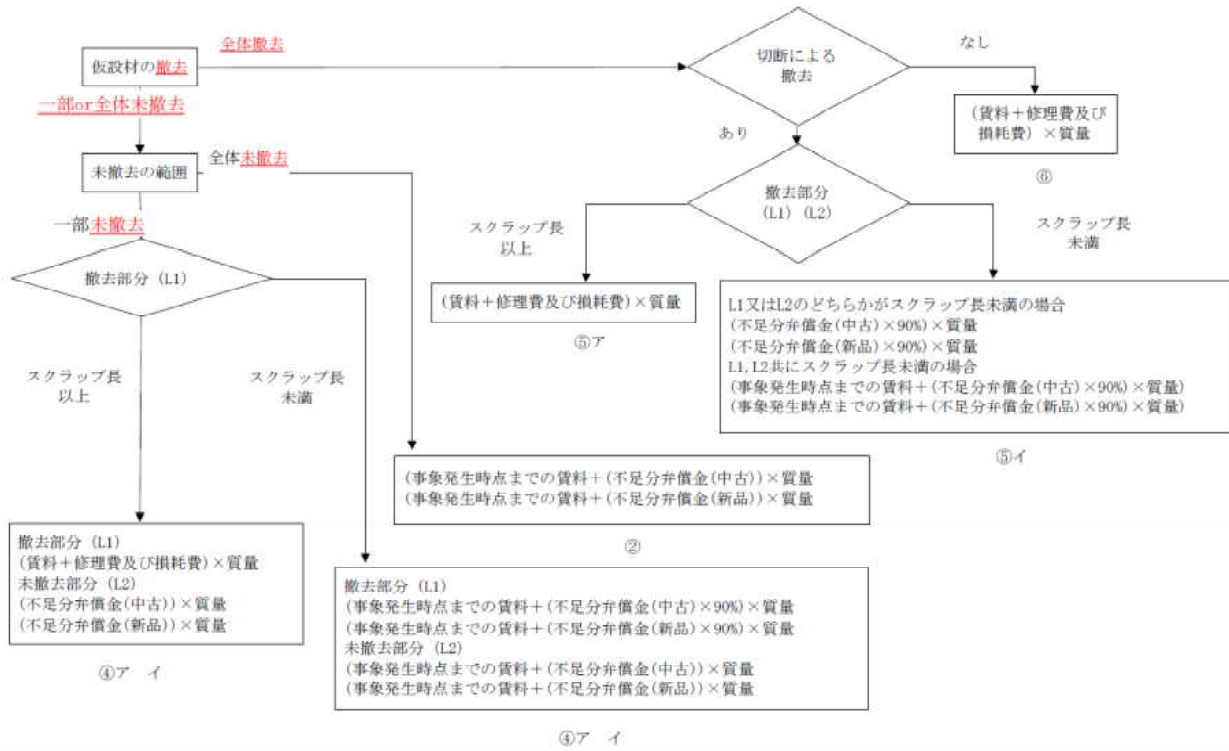
作業種別区分		作業日当たり標準作業量	
端末支柱	建込み	標準型	5本/日
		耐雪型	5本/日
中間支柱	機械打込み	標準型	44本/日
		耐雪型	37本/日
	コンクリート建込み		25本/日
ケーブル張		B種	205m/日
		C種	273m/日

5) 工事用仮設材（鋼矢板、H形鋼）の計上について
 下記により難しい場合は、別途考慮する。

5) - 1 当初より撤去しない場合又は当初より一部を撤去しない場合



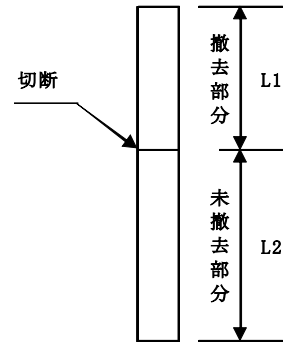
5) - 2 当初より撤去する場合又は現地の状況で一部もしくは全体が撤去できなくなった場合



なお、当初より賃料を計上していたが、賃貸契約期間中に、引き抜き不能等の事象が発生したり、賃貸契約期間が延びて購入に切り替えとなった場合については、後述の（注）に記載のとおり別途考慮すること。

- ① 当初より撤去しない場合
 ア 中古品の場合は市中価格の90%とする
 イ 新品を使用する場合、又は中古品が入手不可能な場合は市中価格とする
 ② 当初は撤去を考えていたが、現地の状況で1本ものが全て撤去できなくなった場合
 (事象発生時点までの賃料+ (不足分弁償金 (中古))) ×質量
 (事象発生時点までの賃料+ (不足分弁償金 (新品))) ×質量
 ③ 当初より、現地の状況で1本もののうち一部を撤去しないものとした場合
 ア L1について

- ・L1がスクラップ長以上の場合は賃料を計上する
 (賃料+修理費及び損耗費) ×質量
- ・L1がスクラップ長未満の場合は市中価格を計上する
 (市中価格×80%) ×質量・・・中古品の場合
 (市中価格×90%) ×質量・・・新品の場合

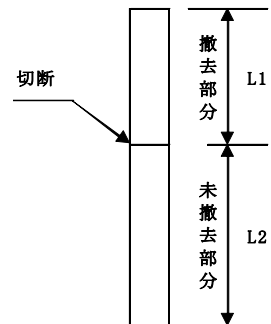


イ L2について

- ・L1がスクラップ長以上の場合は、L2 (未撤去部分) については、不足分弁償金を計上する。
 (不足分弁償金 (中古)) ×質量
 (不足分弁償金 (新品)) ×質量
- ・L1がスクラップ長未満の場合は、L2 (未撤去部分) については、市中価格を計上する。
 (市中価格×90%) ×質量・・・中古品の場合
 (市中価格) ×質量・・・新品の場合

- ④ 当初は撤去を考えていたが、現地の状況で1本もののうち一部が撤去できなくなった場合
 ア L1について

- ・L1がスクラップ長以上の場合は賃料を計上する
 (賃料+修理費及び損耗費) ×質量
- ・L1がスクラップ長未満の場合は事象発生時点までの賃料及び不足分弁償金を計上する
 (事象発生時点までの賃料+ (不足分弁償金 (中古) ×90%)) ×質量
 (事象発生時点までの賃料+ (不足分弁償金 (新品) ×90%)) ×質量



イ L2について

- ・L1がスクラップ長以上の場合は、L2 (未撤去部分) については、不足分弁償金を計上する
 (不足分弁償金 (中古)) ×質量
 (不足分弁償金 (新品)) ×質量
- ・L1がスクラップ長未満の場合は、L2 (未撤去部分) については、事象発生時点までの賃料+不足分弁償金を計上する
 (事象発生時点までの賃料+ (不足分弁償金 (中古))) ×質量
 (事象発生時点までの賃料+ (不足分弁償金 (新品))) ×質量

- ⑤ 当初は切断をせずに撤去するものとしていたが、現地状況により切断を行い撤去した場合

ア ~~L1又はL2~~がスクラップ長以上の場合 L1又はL2について

- ・賃料を計上する
 (賃料+修理費及び損耗費) ×質量

イ ~~L1又はL2~~がスクラップ長未満の場合 L1又はL2について

- ・L1又はL2のどちらかがスクラップ長未満の場合、不足分弁償金を計上する
 (不足分弁償金 (中古) ×90%) ×質量
 (不足分弁償金 (新品) ×90%) ×質量
- ・L1、L2共にスクラップ長未満の場合、事象発生時点までの賃料及び不足分弁償金を計上する
 (事象発生時点までの賃料+ (不足分弁償金 (中古) ×90%)) ×質量
 (事象発生時点までの賃料+ (不足分弁償金 (新品) ×90%)) ×質量

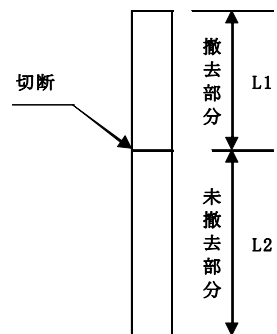


表5.14 補正係数 (f) H形鋼 1 枚 (本) 当り 2 箇所以上継施工を行う場合)

適用	H形鋼 H250、H300、H350、H400											
最大N値	単独施工 (Nmax < 50)				ウォータージェット併用施工 (50 ≤ Nmax < 100)				ウォータージェット併用施工 (100 ≤ Nmax ≤ 180)			
	2箇所	3箇所	4箇所	5箇所	2箇所	3箇所	4箇所	5箇所	2箇所	3箇所	4箇所	5箇所
補正係数	0.66	0.49	0.39	0.33	0.72 (0.69)	0.57 (0.54)	0.48 (0.44)	0.41 (0.37)	0.77	0.63	0.54	0.48

(注) ウォータージェット併用施工における () 書きは、Nmax < 50の場合で転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する必要が生じた場合。

5-3 継施工費

表5.15 継施工費 (円/箇所)

鋼矢板・H形鋼		継施工費
鋼 矢 板	Ⅱ型	7,970
	Ⅲ型	8,330
	Ⅳ型	8,450
	V _L 型	11,600
	V _L 型	11,900
	Ⅱ _w 型	9,390
	Ⅲ _w 型	9,630
	Ⅳ _w 型	10,100
	10H型 (ハット)	15,100
	25H型 (ハット)	16,100
H 形 鋼	H250	26,100
	H300	33,200
	H350	46,900
	H400	67,400

5-4 引抜き作業

鋼矢板、H形鋼の1日当たり引抜き枚数及び本数(N)は次表による。

表5.16 日当たり施工枚(本)数 (枚(本)/日)

引抜長	施工枚(本)数
2以下	91
4以下	78
6以下	68
9以下	58
12以下	50
15以下	43
19以下	38
23以下	33
25以下	30

(2) バイプロハンマ杭打機とウォータージェット併用による鋼矢板等の打込み10枚(本)当たり単価表
(鋼矢板等打込み長〇〇m当たり)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表4.1 表5.3～表5.4、表5.7～表5.8、表5.16
と び 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2(3)$	〃 〃
普 通 作 業 員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃
溶 接 工		〃	$\frac{10}{N} \times 1 [2]$	〃 (必要に応じて計上) 〃
バイプロハンマ 杭 打 機 運 転		日	$\frac{10}{N}$	表3.1、表3.3、表3.6 〃
杭 打 用 ウオータージェット運転		〃	$\frac{10}{N}$	表3.1、表3.3 〃
継 施 工 費		箇所	10×x	表5.15 (必要に応じて計上)
諸 雑 費		式	1	表6.1
計				

備考 N：日当たり施工枚数(枚(本)/日)

x：1本当たり継施工箇所数(箇所/枚(本))

() 書き：H形鋼(継施工あり)の場合に適用する。

[] 書き：鋼矢板(継施工あり)の場合に適用する。

8 その他

(1) ウォータージェット併用施工時に用いる上水道等が必要な場合は、別途計上する。

(2) ウォータージェット併用施工時に発生する濁水の運搬・処理が必要な場合は、別途計上する。

9 機械運転単価表

(運転日当たり)

名 称	単 位	電動式バイプロハンマ杭打機 電動式・普通型 60kw ・90kw	適 用	機械工歩掛
特 殊 運 転 手	人	1.0	打込み 引抜き	02-08-290 02-08-300
軽 油	ℓ	69		
バイプロハンマ単体損料	供用日	1.3		
クロークレーン損料	供用日	油圧駆動式ウィンチ・ラジジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値) 50～55t吊 1.3		

(運転日当たり)

名 称	単 位	電動式バイプロハンマ杭打機 (ハット型鋼矢板用) 電動式・可変モーメント型 60kw・90kw	適 用	機械工歩掛
特 殊 運 転 手	人	1.0	打込み	02-08-302 02-08-304
軽 油	ℓ	69		
バイプロハンマ単体損料	供用日	1.3		
クロークレーン損料	供用日	油圧駆動式ウィンチ・ラジジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値) 50～55t吊 1.3		